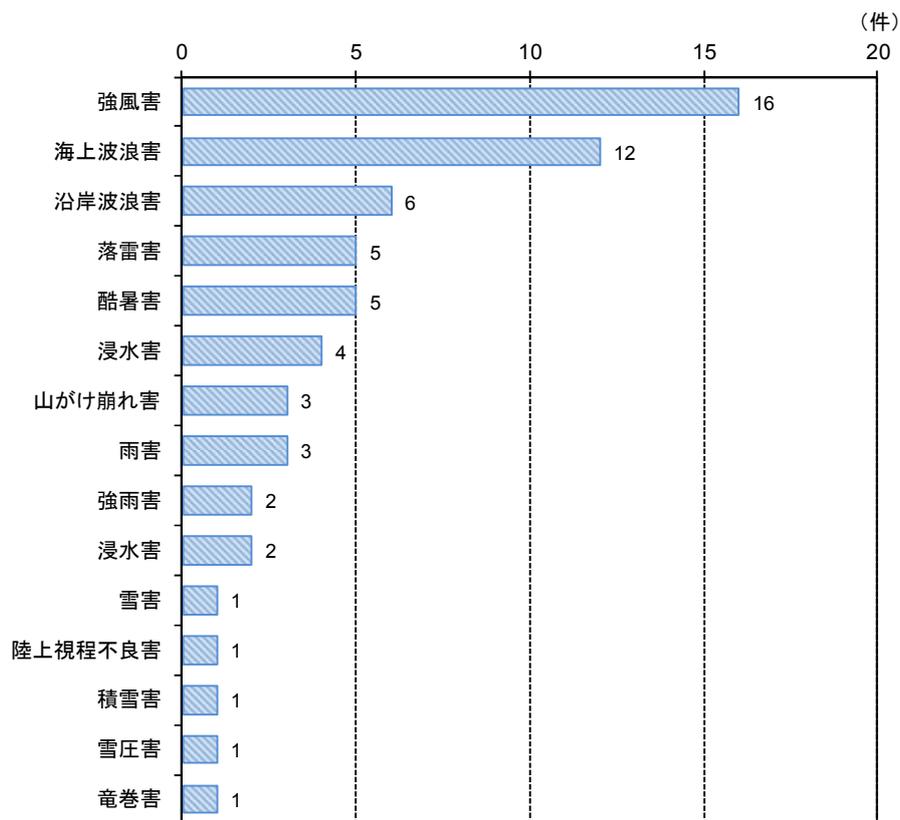


2.2 災害履歴

過去に発生した風水害、地震災害等の履歴を把握した。

2.2.1 千葉県における気象災害の特徴

県内の過去1年間（平成27年8月～平成28年7月）に発生した気象災害の内訳をみると、強風害が16件で最も多く、次いで海上波浪害の12件、沿岸波浪害の6件となっており、県全体としては風害の発生頻度が高くなっている。



※気象災害：気象が主要な原因となって起こる災害
※統計は、平成27年8月～平成28年7月の累計件数

出典) 銚子地方気象台

図 2.2.1 県内の過去1年間の気象災害の発生状況

2.2.2 風水害

本市における主な風水害を表 2.2.1、表 2.2.2に示す。

本市は、利根川や利根川の支流等多くの河川が存在するほか、浸食谷による低湿地帯も多く、風水害の被害を受けやすい地域といえる。

明治時代には利根川の堤防が何度も切れ、特に明治 43 年 8 月の洪水は、利根川の洪水史を代表するものであった。市内でも利根川・印旛沼の堤防が決壊し、安西、長沼地区の民家がほとんど水没した。これを契機に、明治後期から昭和初期にかけて利根川の河川改修工事が行われたため、その後、利根川本川の破堤を原因とする水害は発生していない。

しかし一方で、利根川の支川である根本名川、派川根本名川、十日川については、利根川の水位上昇時において内水氾濫が発生し、下流部等では度々浸水被害に見舞われてきた。

このため、河川改修事業を実施し、その後、水害の脅威は無くなったものの、内水被害は昭和 50 年頃までは頻繁にあった。

風害については、平成 27 年 9 月 6 日 22 時 10 分頃に、市内宝田、芦田で突風が発生し、住家の屋根瓦のめくれや落下、樹木の枝の折損等の被害が発生している。気象台では、この突風をもたらした現象は、竜巻の可能性が高いと判断している。

表 2.2.1 本市における主な風水害

発生年月日	原因	被害内容
明治 43 年 8 月 5 日～16 日	利根川堤防決壊を原因とする水害	破堤延長 756m、流出家屋 292 戸 浸水家屋 663 戸、水田冠水 1,846ha
昭和 16 年 7 月	根本名川の内水氾濫を原因とする水害	全壊・半壊家屋 20 戸、浸水家屋 393 戸、水田冠水 1,770ha
平成 3 年 9 月 8 日	台風 15 号による水害	半壊家屋 1 戸、床上浸水 194 戸 床下浸水 42 戸、水稻冠水 338ha 等
平成 3 年 9 月 19 日	台風 18 号による水害	全壊家屋 1 戸、半壊家屋 1 戸、床上浸水 1 戸、床下浸水 28 戸、水稻冠水 105ha 等
平成 25 年 10 月 16 日	台風 26 号による水害	成田市：最大風速 23.5m、日降水量 215.5mm、月最大 24 時間降水量 327mm（いずれも観測史上 1 位の値を更新）、最大 1 時間降水量 49mm、 全壊家屋 3 戸、半壊家屋 14 戸、床上浸水 16 戸、床下浸水 36 戸 等

出典) 成田市総合防災調査報告書概要版(平成 8 年 3 月)
東京管区気象台
成田市統計書(平成 28 年版)

※日降水量と 24 時間降水量

日降水量は、日付を区切りとし、0 時 01 分から 24 時 00 分までの 24 時間(1 日当たり)の降水量を表す。24 時間降水量は、任意時間を起点として連続する 24 時間の降水量を表す。日降水量では、深夜から未明にかけての集中豪雨など 24 時をまたぐ降水では 2 日間に分けられるため、雨の激しさをうまく表せないことがある。これを補うものとして任意の 24 時間で計算する 24 時間降水量がある。

表 2.2.2 主な風水害の履歴

区分 年月日	原因	被害総額 (千円)	被害状況						
			家屋(戸)				農業(ha)		その他 (箇所)
			全壊	半壊	床上 浸水	床下 浸水	水稻 冠水	その他	
昭和46年9月8日	台風25号	303,121	9	7	62	142	1,304		215
昭和47年9月12日	降雹による被害	182,645		331		54	190	75	7
昭和47年9月16日～17日	台風20号	15,392			4	73	0.6	1,506	20
昭和47年12月24日	大雨による被害	120			2	17			
昭和48年10月28日	大雨による被害				1	34			
昭和48年11月10日	大雨による被害					38			
昭和50年7月4日	大雨による被害								1
昭和50年10月5日	台風13号				1	10			2
昭和52年9月19日	台風11号	52,588			8	33	158		22
昭和53年7月～9月	高温・小雨による被害	893,000						718	
昭和56年10月22日	台風24号	2,000			3	28		0.1	4
昭和57年4月15日	大雨による被害				1	3			
昭和57年6月20日	大雨による被害					3			
昭和57年8月6日	台風10号	31,644							1
昭和57年9月12日～13日	台風18号	75,546			22	89	203		129
昭和57年9月25日	台風19号					10			4
昭和58年6月9日	大雨による被害				2	23			
昭和58年8月16日～17日	台風5・6号					1			
昭和58年9月29日	台風10号		1						1
昭和59年6月1日	大雨による被害					4			
昭和60年7月1日	台風6号					4	370	209	19
昭和61年8月4日	台風10号	7,448,150			3	18	400	4.5	80
昭和61年9月13日	大雨による被害				2	51			
昭和62年9月16日	台風13号					1			
昭和63年9月28日	大雨による被害	340							1
平成元年8月26日	台風17号				7	31			
平成2年11月4日	大雨による被害	8,496	1	1		30			14
平成3年9月8日	台風15号	105,272		1	194	42	338	32	85
平成3年9月19日	台風18号	77,012	1	1	1	33	105	107	171
平成3年10月10日	台風21号	316,078	1	2					23
平成5年8月26日～27日	台風11号	23,529				6		0.04	7
平成5年11月13～14日	大雨による被害					4			7
平成6年2月12日	大雪による被害	4,000						4	
平成6年7月12日～9月19日	高温・小雨による被害	182,590						242	
平成6年9月17日	大雨による被害						1		
平成6年9月29日	台風29号						1		
平成8年9月22日	台風17号				1	15			
平成12年5月24日	降雹による被害	112,651			3	6		397	
平成13年8月21日	台風11号								5

区分 年月日	原因	被害総額 (千円)	被害状況						その他 (箇所)
			家屋(戸)				農業(ha)		
			全壊	半壊	床上 浸水	床下 浸水	水稲 冠水	その他	
平成13年9月10日	台風15号								5
平成13年10月10日	大雨による被害			1	3				35
平成14年7月10日	台風6号								1
平成14年10月1日	台風21号								7
平成15年10月13日	突風による被害			4					
平成16年10月9日	22号・秋雨前線に伴う大雨による被害								9
平成16年10月20日	台風23号								1
平成18年10月6日	大雨による被害	502							2
平成18年12月26日	大雨による被害	10							4
平成19年9月6日	台風9号								2
平成20年8月5日	大雨による被害				1				1
平成21年8月31日	台風11号								1
平成22年9月28日	大雨による被害								1
平成22年10月20日	土砂災害								1
平成23年9月23日	台風15号								11
平成24年4月3日	突風による被害								1
平成24年6月20日	台風4号							2	
平成24年10月1日	台風17号							0.13	
平成25年10月16日	台風26号		3	14	16	36		51	
平成27年7月3日	大雨による被害								1
平成27年9月6日	暴風による被害								9

出典) 成田市地域防災計画
成田市統計書(平成28年版)



昭和16年7月、台風の上陸により根木名川が決壊し、安西地区は一夜にして家屋が水没した。

出典) 広報なりた 平成14年9月15日号「成田歴史玉手箱」

2.2.3 地震災害

千葉県に被害をもたらした主な地震と主な地震災害の履歴を表 2.2.3、表 2.2.4 に示す。

千葉県に被害をもたらした地震として、「1677 年房総沖の地震」、「1703 年元禄関東地震」、「1855 年安政江戸地震」、「1923 年大正関東地震」「1987 年千葉県東方沖地震」、「2011 年東北地方太平洋沖地震」の 6 地震があげられる。

また、本市が被災した地震災害としては、「千葉県東方沖地震」と「東北地方太平洋沖地震」が挙げられる。

このうち、「千葉県東方沖地震」では、軽傷者が 1 名発生し、屋根瓦落下等の建物被害が多数発生したが、震源に近い地域と比較すると、大きな被害は発生しなかった。

一方、「東北地方太平洋沖地震」では、本市は震度 6 弱を観測し、重傷者 1 名、軽傷者 16 名の人的被害や建物の全壊 4 棟、半壊 64 棟、一部損壊 1,286 棟などの建物被害が発生したほか、路面の隆起、亀裂等道路・交通インフラも大きな被害を受けた。

表 2.2.3 千葉県に被害をもたらした主な地震

年月日	地震名	概要
1677. 11. 4 (延宝 5 年 10 月 9 日)	房総沖の地震	M8 と推定される地震で、震源は房総半島の東方沖合とされている。福島県から房総半島、八丈島にかけての地域で津波の被害が著しく、房総半島で 246 余名が津波により亡くなったとされている。
1703. 12. 31 (元禄 16 年 11 月 23 日)	元禄関東地震	M7.9～8.2 と推定される大地震である。地震の規模や房総半島南部における海岸の隆起量から、大正関東地震よりも大きな地震であったと考えられる。房総半島南部では震度 7 の揺れが発生した地域もある。房総半島はこの地震により発生した津波に襲われ、6,500 人以上の死者が出たとされている。
1855. 11. 11 (安政 2 年 10 月 2 日)	安政江戸地震	M6.9 の地震で、東京湾北部のやや深いところで発生したとされている。 東京都東部を中心に、埼玉県西部や千葉県北西部で震度 6 相当の揺れがあった。津波の被害はなかったが、各地で火災や液状化が起り、全体で 7,000 人以上の死者が出た。
1923. 9. 1 (大正 12 年)	大正関東地震	相模トラフと呼ばれる海域を震源とする M7.9 の地震である。関東地方の南部で大きな揺れが起り、広い範囲で震度 6 が観測されている。 千葉県では房総半島南部の館山周辺で被害が大きく、木造建物の倒壊率が 50% を超える地域が広く分布する。千葉県における被害は死者 1,300 人以上、全潰家屋は 3 万棟を超え、被害域全体における死者と行方不明者を合わせた数は 15 万人近くに及んだ大震災である。
1987. 12. 17 (昭和 62 年)	千葉県東方沖地震	九十九里浜付近の深さ 50 km 付近を震源とする M6.7 の地震で、勝浦、千葉、銚子等で最大震度 5 を観測した。 被害は千葉県を中心に広範囲に及び、県内で死者 2 名、重軽傷者 100 名超となったほか、多くの建物被害が発生した。なかでも、瓦の落下等による家屋の一部破損は東金市や茂原市など、山武、長生支庁管内を中心に 7 万棟を超えた。 その他、液状化やがけ崩れ、土砂災害が多く発生したほか、電気、水道、ガス等のライフラインは、停電、断水、供給停止となり、地域によっては 1 か月以上にわたり不自由な生活を強いられた。
2011. 3. 11 (平成 23 年)	東北地方太平洋沖地震	深さ 24 km の三陸沖を震源とする M9.0 の地震で、宮城県栗原市で震度 7、宮城県、福島県、茨城県の 4 県 37 市町村で震度 6 強を観測したほか、東日本を中心に北海道から九州地方にかけての広い範囲で震度 6 弱～1 を観測した。 千葉県では、成田市及び印西市で震度 6 弱を観測するなど、県内全域を襲った強い揺れに加え、旭市など太平洋沿岸地域を中心に到来した大津波、東京湾沿岸の埋立地や利根川沿い等の低地で発生した液状化現象により、甚大な被害が発生した。 また、死者 20 名、行方不明者 2 名のほか、浸水を含む住宅等の被害は、県下 54 市町村の 72% を占める 29 市 10 町に及んだ。

出典) 国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター「地質ニュース 606 号」を参考に作成

表 2.2.4 主な地震災害の履歴（江戸時代以降）

番号	西暦年月日 (日本歴)	震央		マグニ チュード	県内最 大震度	地 変	人命・家屋等の被害
		東経 北緯	震央地名				
1	1605.2.3 (慶長9年 12月16日)	134.9 33.0	南海 トラフ沿い	7.9			死者多数
2	1677.11.4 (延宝5年 10月9日)	142.0 35.5	房総沖	8.0		勝浦から東浪見にかけて多くの被害が発生した。	銚子市高神1万余の樹木が倒れた。家や漁船の被害が大きかった。東浪見で倒家50戸、水死者97名、和泉浦で倒家多数、田畑浸水、水死者13名、大原で倒家25戸、水死者9名、矢差戸で倒家25戸、水死者13名、岩船で倒家40戸、水死者57名、御宿で倒家30戸、水死者36名
3	1703.12.31 (元禄16年 11月23日)	139.8 34.7	房総沖	8.2	6	安房地方で山くずれが多く発生した。嶺岡山で亀裂が生じたのをはじめ各地で地割れが生じた。	津波による被害が主であった。安房小湊で570軒流失、死者100名、御宿で倒家440戸、死者20余名、千倉、布良で死者多数、九十九里南部津波で壊滅。
4	1855.11.11 (安政2年 10月2日)		東京湾 北部	7.2	6	浦安、船橋地区で地面に亀裂が生じ、噴砂がみられた。松戸から浦安にかけての地域で震度6。	下総地方で倒家多く、死傷者も多数であった。
5	1906.2.23 (明治39年)	139.8 34.8	安房沖	7.3			北条や平郡で壁に小亀裂が生じた。
6	1906.2.24 (明治39年)	139.8 35.5	東京湾口	7.7			木更津、湊で壁土や瓦の墜落などの被害があった。
7	1909.3.13 (明治42年)	141.0 35.6	銚子沖	7.2		名洗で地盤に亀裂が生じた。	銚子で家屋の傾斜2戸と煙突の挫折があった。
8	1921.12.8 (大正10年)	140.1 35.8	竜ヶ崎 付近	7.1		印旛郡で道路に亀裂が生じた。	印旛郡で土蔵破損数か所、千葉や成田で多少の被害があった。
9	1922.4.26 (大正11年)	139.7 35.2	浦賀水道	6.9	5	布良で崖くずれ。	建物全壊8戸、破損771戸、小学校傾斜1棟。館山、木更津、大多喜等で土蔵や倉庫等の壁落下。
10	1923.9.1 (大正12年)	139.3 35.2	相模湾	7.9	6	安房地方で地割れ、噴砂、噴水が多見した。上総、安房地方の丘陵地では山くずれが多発した。三芳村付近に地震断層が生じた。	千葉県で死者1,335名、負傷者3,426名、行方不明者7名、全壊家屋31,186戸、半壊14,919戸、焼失647戸、流失71戸、建物の倒壊は安房、上総に多く、流失は布良の津波によるものである。
11	1923.9.2 (大正12年)	140.4 35.1	勝浦沖	7.4	6	勝浦付近では関東地震より強く揺れた。	勝浦で瓦の落下など小被害があった。
12	1953.11.26 (昭和28年)	141.7 34.0	房総半島 南東沖	7.4	5		館山、富崎で墓石が転倒し、犬吠埼灯台の水銀がこぼれた。
13	1960.5.23 (昭和35年)	73.5 38.0	チリ沖	8.5			津波による被害は死者1名(銚子)、負傷2名、半壊家屋11戸、田畑の冠水173haに及んだ。
14	1987.12.17 (昭和62年)	140.5 35.4	千葉県 東方沖	6.7	5	山武、長生郡市を中心に、崖くずれ、道路の亀裂、陥没、堤防の沈下、地盤の液状化現象等が多数発生した。また、崖くずれの危険に伴う住民避難が生じた。	千葉県全体で死者2名、負傷者144名、全壊家屋16棟、半壊家屋102棟、一部損壊71,212棟、断水49,752戸、停電287,900戸、ガス供給停止4,967戸、ブロック塀等の倒壊2,792か所が発生した。なお、住家被害のほとんどが屋根瓦の崩落によるものであった。
15	1989.3.6 (平成元年)	140.7 35.7	千葉県 北東部	6.0	5	佐原市ほか4町で農業用水施設(地下埋設管)に破損が生じた。	佐原市ほか4市町で屋根瓦の落下による家屋の一部破損が12棟、多古町で水道管の亀裂により断水70戸の被害がでた。
16	2005.4.11 (平成17年)		千葉県 北東部	6.1	5強		県内で家屋の一部損壊4棟の被害がでた。
17	2005.7.23 (平成17年)		千葉県 北西部	6.0	5弱		県内で負傷者8名、家屋の一部損壊3棟の被害がでた。
18	2007.8.18 (平成19年)	140.2 35.2	千葉県 南部	4.8	5弱		震度5弱を観測したのは、一宮町のみで、県内で被害は発生しなかった。

番号	西暦年月日 (日本歴)	震央		マグニ チュード	県内最 大震度	地 変	人命・家屋等の被害
		東経 北緯	震央地名				
19	2011. 3. 11 (平成 23 年)	142. 9 38. 0	三陸沖	9. 0	6 弱	東京湾岸の埋立地や利根川沿いの低地等においては、長く続いた地震の揺れにより地盤の液状化が発生し、道路、上下水道等に被害が発生した。	平成 24 年 3 月 1 日現在、死者 20 名（うち、津波による死者 14 名、行方不明者 2 名、負傷者 251 名。建物全壊 798 棟、半壊 9, 923 棟、一部損壊 46, 828 棟、建物火災 15 件、床上浸水 154 棟、床下浸水 722 棟。水道断水 177, 254 戸、下水道 12, 600 戸で使用制限。ガス 8, 631 戸で停止。電気 35 万 3 千戸で停電。国道、県道で全面通行止め 33 か所、片側通行規制 12 か所。農業施設の損壊 2, 257 か所ほか。漁船転覆・乗り上げ等 390 隻。石油コンビナート爆発事故（市原市）。福島第一原発事故による計画停電、放射性物質に伴う農林水産物の出荷制限等が発生した。
20	2011. 3. 11 (平成 23 年)	141. 2 36. 0	茨城県沖	7. 6	5 強		銚子市、旭市、多古町、匝瑳市、香取市、成田市で震度 5 強を観測。 (東北地方太平洋沖地震の余震)
21	2011. 3. 16 (平成 23 年)	140. 5 35. 5	千葉県 東方沖	6. 1	5 弱		震度 5 弱を観測したのは、銚子市のみ。 (東北地方太平洋沖地震の余震)
22	2011. 4. 12 (平成 23 年)	140. 5 35. 3	千葉県 東方沖	6. 4	5 弱		震度 5 弱を観測したのは、旭市、香取市のみ。 (東北地方太平洋沖地震の余震)
23	2011. 4. 21 (平成 23 年)	140. 4 35. 4	千葉県 東方沖	6. 0	5 弱		震度 5 弱を観測したのは、旭市のみ。 (東北地方太平洋沖地震の余震)
24	2012. 3. 14 (平成 24 年)		千葉県 東方沖	6. 1	5 強	銚子市市道の一部で、液状化による噴砂等が発生した。	県内で死者 1 名、負傷者 1 名、家屋の一部損壊 3 棟の被害がでた。銚子市及び香取市において、一時、約 14, 800 軒以上に断水が発生した。
25	2012. 4. 29 (平成 24 年)		千葉県 北東部	5. 8	5 弱		震度 5 弱を観測したのは、旭市のみで、県内で被害は発生しなかった。

※県内における震度 5 弱以上を観測した地震、震度不明のものはマグニチュード 7.0 以上のものを記載

出典) 成田市地域防災計画
気象庁

千葉県東方沖地震と東北地方太平洋沖地震における、県内及び本市内の被害状況を表 2.2.5、表 2.2.6、表 2.2.7、表 2.2.8に示す。

表 2.2.5 千葉県東方沖地震の千葉県内の被害状況

区分	単位	被害数	備考
人的被害	死者	2	千葉、長生支庁管内で各1人
	重傷者	26	山武支庁管内で最も多く12人
	軽傷者	118	山武支庁管内で最も多く65人
住家被害	全壊	16	千葉支庁管内で10棟
	半壊	102	長生支庁管内が最も多く75棟
	一部破損	71,212	主に山武、長生支庁管内での瓦落下などの被害
非住家被害	公共建物	7	
	その他	60	
その他	文教施設	682	千葉支庁管内が最も多く269か所、次いで東葛飾支庁管内の83か所
	病院	6	
	橋梁	64	山武、長生支庁管内で47か所
	港湾	9	被害は千葉支庁管内で5か所、君津支庁管内で4か所
	清掃施設	5	
土砂災害	河川	176	山武、長生支庁管内で126か所
	がけ崩れ	434	山武、長生支庁管内で357か所
	ブロック塀	2,792	
交通	道路	1,832	山武、長生支庁管内で1,348か所。液状化による陥没は16か所
	鉄道不通	20	点検によるものを含む
ライフライン	水道	49,752	断水戸数。山武支庁管内が最も多く34,000戸以上
	電気	287,900	停電戸数
	電気ガス	4,967	供給停止戸数。山武、長生支庁管内で4,952戸
火災発生	件	3	山武支庁管内2、夷隅支庁管内1

出典) 昭和62年(1987年)千葉県東方沖地震—災害記録—(千葉県、1989年)



屋根瓦の崩落(東金市)



がけ崩れ(長南町)



石塀の被害(長柄町)

出典) 「防災誌 関東大震災 第2章 噴きあがる砂・飛び散る瓦—千葉県に戦後最大の被害を及ぼした千葉県東方沖地震—」(千葉県総務部消防地震防災課)

表 2.2.6 千葉県東方沖地震の本市の被害概要

【市全体の被害状況】

区 分		単位	被害数	備 考
市域震度	5弱			
人的被害	死者	人	0	
	重傷者		0	
	軽傷者		1	旧成田市 1
住家被害	一部損壊（瓦落下等）	棟	1,587	旧成田市 1,085、旧下総町 83、旧大栄町 419
その他	文教施設	箇所	26	旧成田市 19、旧下総町 1、旧大栄町 6
	道路・橋梁		85	旧成田市 15、旧下総町 4、旧大栄町 66
	河川		7	旧成田市 7
	ブロック塀等	戸	91	旧成田市 82、旧下総町 4、旧大栄町 5
	農業用水路	箇所	15	旧成田市 8、旧下総町 1、旧大栄町 6

参考) 昭和 62 年 (1987 年) 千葉県東方沖地震－災害記録－ (千葉県、1989 年)

【旧成田市の地区別の住家等被害状況】

地区区分	家屋		屋外	
	屋根瓦	壁・タイル	門・塀等	その他
成田地区	170	69	34	41 (水道管 5)
公津地区	172	50	10	51
八生地区	19	7	1	5
中郷地区	58	63	4	11
久住地区	91	43	4	2
豊住地区	11	15	2	1
遠山地区	239	78	24	107
合計	760	325	79	218 (水道管 5)

出典) 昭和 62 年 (1987 年) 千葉県東方沖地震－災害記録－ (千葉県、1989 年)

表 2.2.7 東北地方太平洋沖地震の千葉県内の被害状況

区 分		単位	被害数
人的被害	死者	人	20
	行方不明		2
	負傷者		253
建物被害	全壊	棟	801
	半壊		10,086
	一部破損		52,819
	床上浸水		157
	床下浸水		728
火災の発生	建物火災	件	15
ライフラインの被害数	水道（断水）	戸	177,254
	水道（減水）		129,000
	公共下水道		24,300
	電気（停電）	軒	347,000
	ガス（停止）	戸	8,631
道路	全面通行止め（国道・県道）	か所	33
	片側通行規制		12
農業関係	水路、農道、排水機場等の損壊	か所	2,257
漁業関係	漁船転覆・乗り上げ等	隻	390
避難所開設数	48市町村	か所	593
避難者数	平成23年3月12日 7:00現在	人	47,270
被害額推計	平成24年2月24日時点	億円	1,912

※平成25年3月4日現在（但し、道路・農業・漁協関係は平成23年5月31日現在）

出典）千葉県防災危機管理部危機管理課調べ

「ちば経済白書2011」（千葉経済センター発行）（被害額推計のみ）



液状化現象（浦安市）



石油火災（市原市）

出典）東日本大震災写真保存プロジェクト

表 2.2.8 東北地方太平洋沖地震の本市内の被害状況

区 分		単位	被害数
人的被害	死者	人	0
	行方不明		0
	重傷者		1
	軽傷者		16
建物被害	全壊	棟	4
	半壊		64
	一部破損		1,286
	床上浸水		0
	床下浸水		0
火災の発生	建物火災	件	0
ライフラインの被害数	水道（断水）	戸	64
	水道（断水）（千葉県水道局分）		230
	電気（停電）	軒	10,900

※平成 25 年 3 月 4 日現在

出典) 千葉県防災危機管理部危機管理課



路面が大きく隆起した甚兵衛大橋



隆起した道路（成田市中台地内）



ブロック塀の崩れ（成田市土屋地内）



壁が崩落した建物（成田市本町地内）

出典) 成田市

2.3 社会的素因

2.3.1 行政区界

本市の面積は、213.84 km²と広大であり、10 地区、199 の字により構成されている（表 2.3.1、図 2.3.1）。

地区別面積では、大栄地区が5,057.0ha で最も広く、次いで遠山地区の3,855.9ha、下総地区の3,200.0ha となっており、最も面積が狭い地区は、ニュータウン地区の479.2ha である。

また、町丁字数では、遠山地区が31 で最も多く、次いで大栄地区29、ニュータウン地区28 となっており、最も町丁字数が少ない地区は、八生地区及び豊住地区の8 である。

なお、地区別の町丁字名については、資料編「1. 地区別の町丁字一覧表」に示す。

表 2.3.1 地区別の面積・町丁字数

地区名	面積 (ha)	町丁字数
成田地区	623.5	23
公津地区	1,737.7	23
八生地区	1,599.3	8
中郷地区	1,277.9	10
久住地区	2,151.0	16
豊住地区	1,402.5	8
遠山地区	3,855.9	31
ニュータウン地区	479.2	28
下総地区	3,200.0	23
大栄地区	5,057.0	29
合計	21,384.0	199

出典) 成田市統計書 (平成 28 年版)

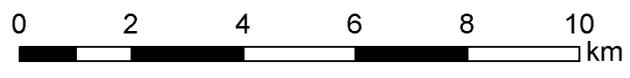


图 2.3.1 地区界图

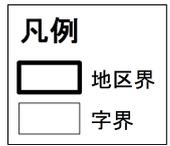
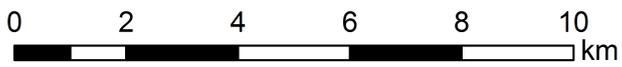


図 2.3.2 字界図

2.3.2 人口・世帯数等

(1) 人口・世帯数

本市の人口・世帯数の推移について、表 2.3.2、図 2.3.3に示す。

本市の総人口は、平成 28 年 6 月末現在 132,404 人、世帯数は 59,910 世帯で、人口、世帯数共に増加傾向を示している。

また、平成 28 年 6 月末現在の一世帯当たり人員は 2.21 人で、単身世帯の増加や核家族化等により、世帯人員は年々減少している。

表 2.3.2 人口・世帯数の推移

	総人口 (人)	世帯数 (世帯)	一世帯当たり人員 (人/世帯)
平成 19 年	122,231	50,529	2.42
平成 20 年	123,742	51,790	2.39
平成 21 年	125,428	53,068	2.36
平成 22 年	126,098	53,645	2.35
平成 23 年	126,235	54,021	2.34
平成 24 年	126,801	54,688	2.32
平成 25 年	130,469	56,755	2.30
平成 26 年	131,233	57,550	2.28
平成 27 年	131,564	58,217	2.26
平成 28 年	132,404	59,910	2.21

出典) 住民基本台帳 (平成 28 年のみ 6 月末現在、他は各年 3 月末現在)

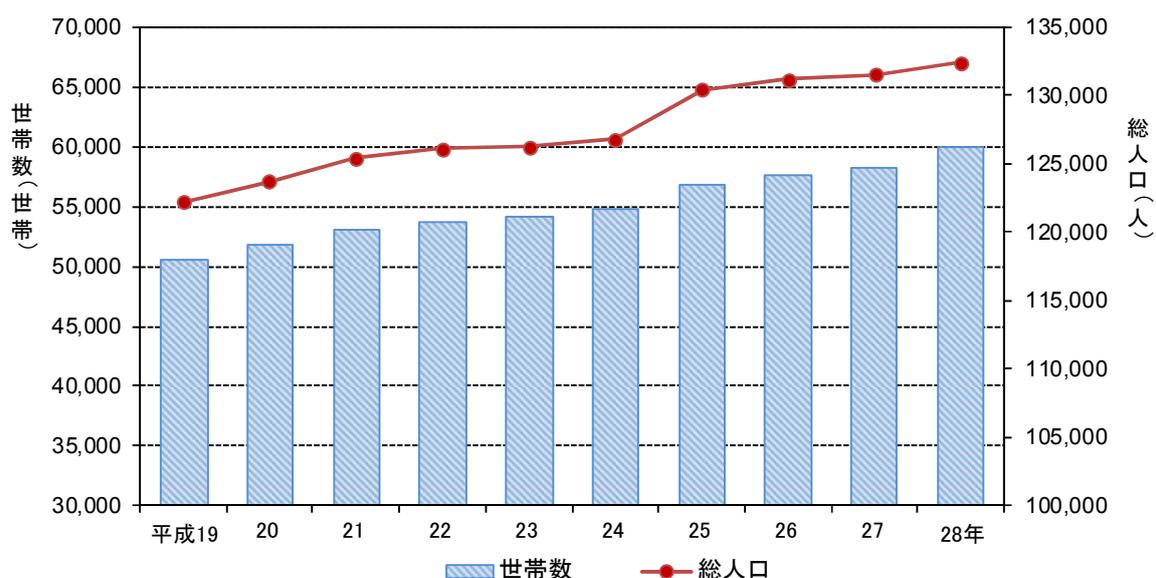


図 2.3.3 人口・世帯数の推移

(2) 年齢別人口

年齢3区分別人口及び割合の推移を表 2.3.3、図 2.3.4に示す。

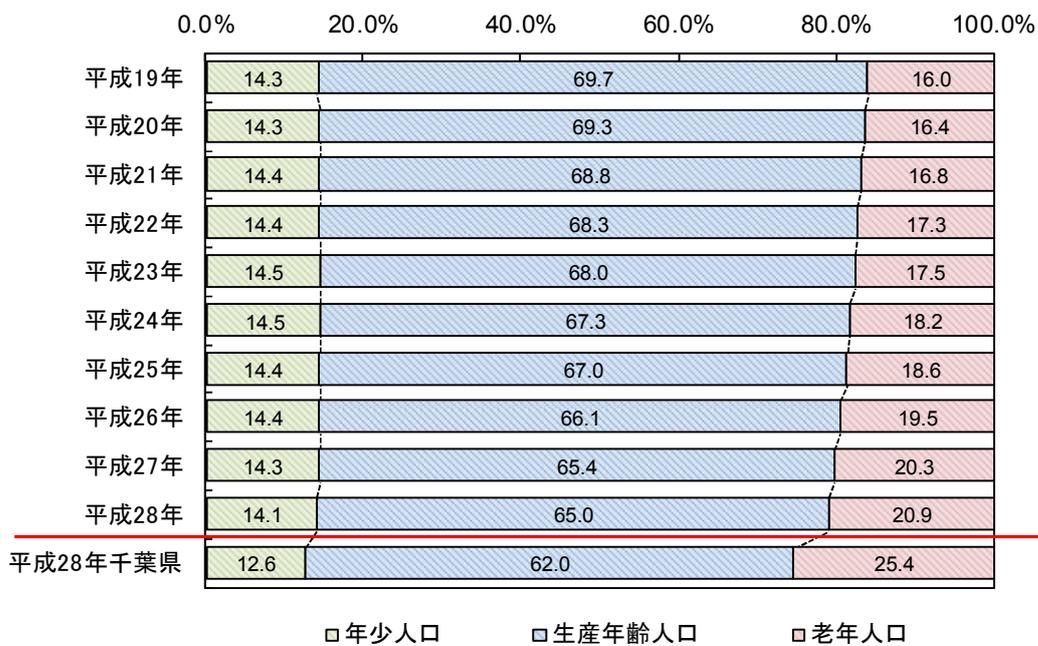
本市の平成 28 年 3 月末現在の年齢 3 区分別人口割合は、年少人口（0 歳～14 歳）14.1%、生産年齢人口（15 歳～64 歳）65.0%、老年人口（65 歳以上）20.9%となっており、過去 10 年間の推移をみると、生産年齢人口割合の減少と老年人口割合の増加が進行している。

しかし、老年人口割合（高齢化率）は、県平均値（25.4%）と比べて低く、少子高齢化の進行は比較的緩やかであることがうかがえる。

表 2.3.3 年齢 3 区分別人口の推移

	年少人口 (0 歳～14 歳) 人	生産年齢人口 (15 歳～64 歳) 人	老年人口 (65 歳以上) 人
平成 19 年	17,456	85,177	19,598
平成 20 年	17,712	85,758	20,272
平成 21 年	18,047	86,270	21,111
平成 22 年	18,178	86,090	21,830
平成 23 年	18,310	85,788	22,137
平成 24 年	18,336	85,391	23,074
平成 25 年	18,738	87,410	24,321
平成 26 年	18,937	86,749	25,547
平成 27 年	18,877	85,984	26,703
平成 28 年	18,642	85,691	27,568

出典) 住民基本台帳 (各年 3 月末現在)



千葉県の人口割合の出典) 千葉県年齢別・町丁字別人口 (平成 28 年 3 月末現在)

図 2.3.4 年齢 3 区分別人口割合の推移

(3) 地区別人口及び世帯数

平成 28 年 6 月末現在の地区別の人口及び世帯数は表 2.3.4 のとおり、公津地区とニュータウン地区が多く、次いで中心市街地部の成田地区、面積の広い遠山地区、大栄地区と続いている。

また、人口及び世帯数の密度は表 2.3.5 のとおり、ニュータウン地区が最も高く、次いで成田地区、公津地区と続いている。

表 2.3.4 地区別人口及び世帯数（平成 28 年 6 月末現在）

	成田地区	公津地区	八生地区	中郷地区	久住地区	豊住地区	遠山地区	ニュータウン地区	下総地区	大栄地区	合計
人口(人)	20,053	31,149	3,306	1,298	4,528	1,899	18,757	32,927	6,945	11,542	132,404
世帯数(世帯)	10,075	13,539	1,382	479	1,687	762	9,561	14,966	2,839	4,620	59,910

出典) 住民基本台帳

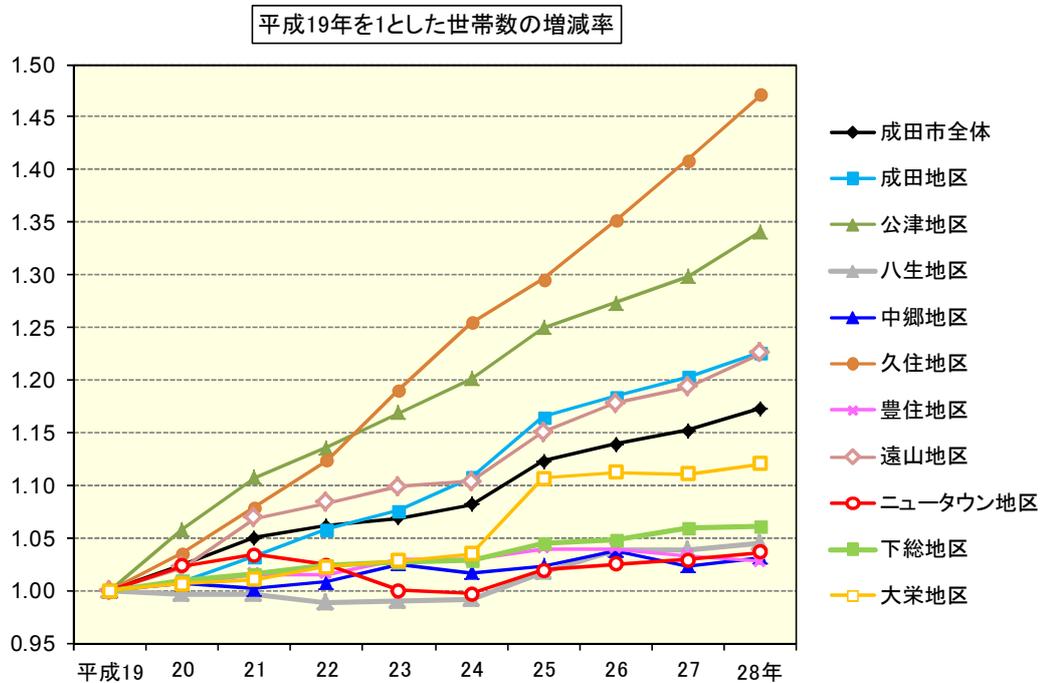
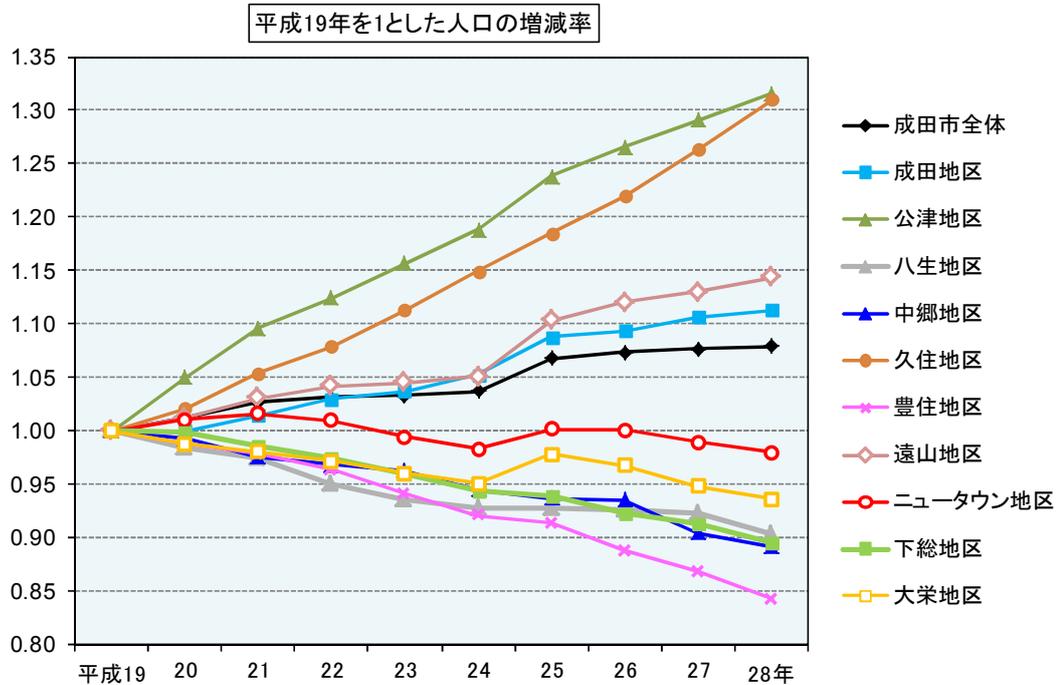
表 2.3.5 人口密度及び世帯密度（平成 28 年 6 月末現在）

	成田地区	公津地区	八生地区	中郷地区	久住地区	豊住地区	遠山地区	ニュータウン地区	下総地区	大栄地区	合計
面積(ha)	623.5	1,737.7	1,599.3	1,277.9	2,151.0	1,402.5	3,855.9	479.2	3,200.0	5,057.0	21,384.0
人口密度(人/ha)	32.2	17.9	2.1	1.0	2.1	1.4	4.9	68.7	2.2	2.3	6.2
世帯密度(戸/ha)	16.2	7.8	0.9	0.4	0.8	0.5	2.5	31.2	0.9	0.9	2.8

出典) 成田市統計書平成 27 年版、住民基本台帳より算出

次に、過去10年間の地区別の人口及び世帯数の推移について、平成19年を1とした増減率でみると、図2.3.5のとおり、人口、世帯数共に久住地区と公津地区の増加率が顕著となっている。

また、世帯数は、すべての地区において、平成19年時よりも増加しているが、人口については、全10地区のうち6地区が減少傾向にあり、中でも豊住地区の減少率が最も高くなっている。



出典) 住民基本台帳(平成28年のみ6月末現在、他は3月末現在)

図 2.3.5 地区別の人口及び世帯数の増減率

また、地区別・町丁字別の人口、世帯数の分布状況は、図 2.3.6、図 2.3.7のとおりである。

なお、地区別・町丁字別の人口、世帯数については、資料編「2. 町丁字別の世帯数、人口、高齢化率」に示す。

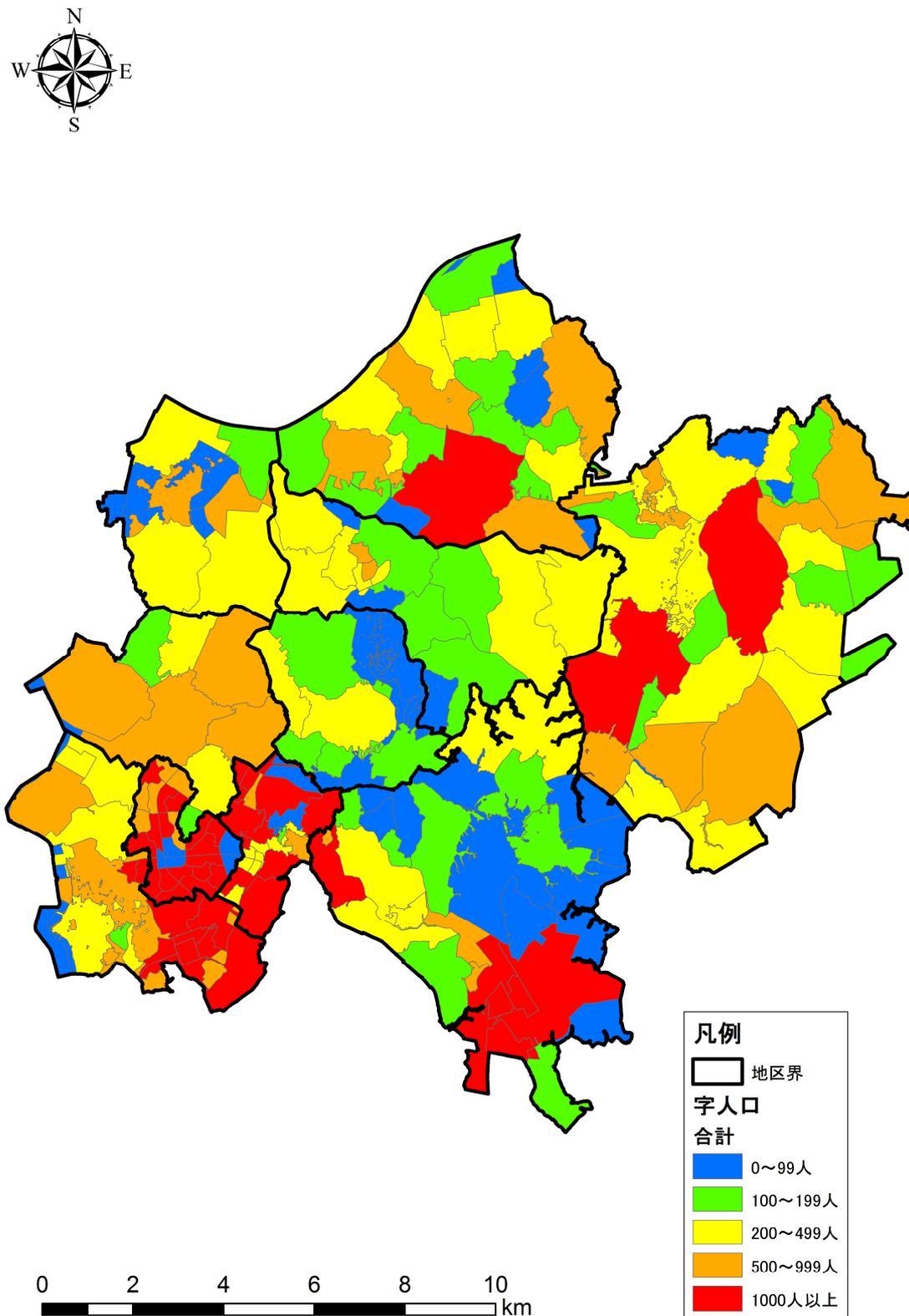


図 2.3.6 人口分布図

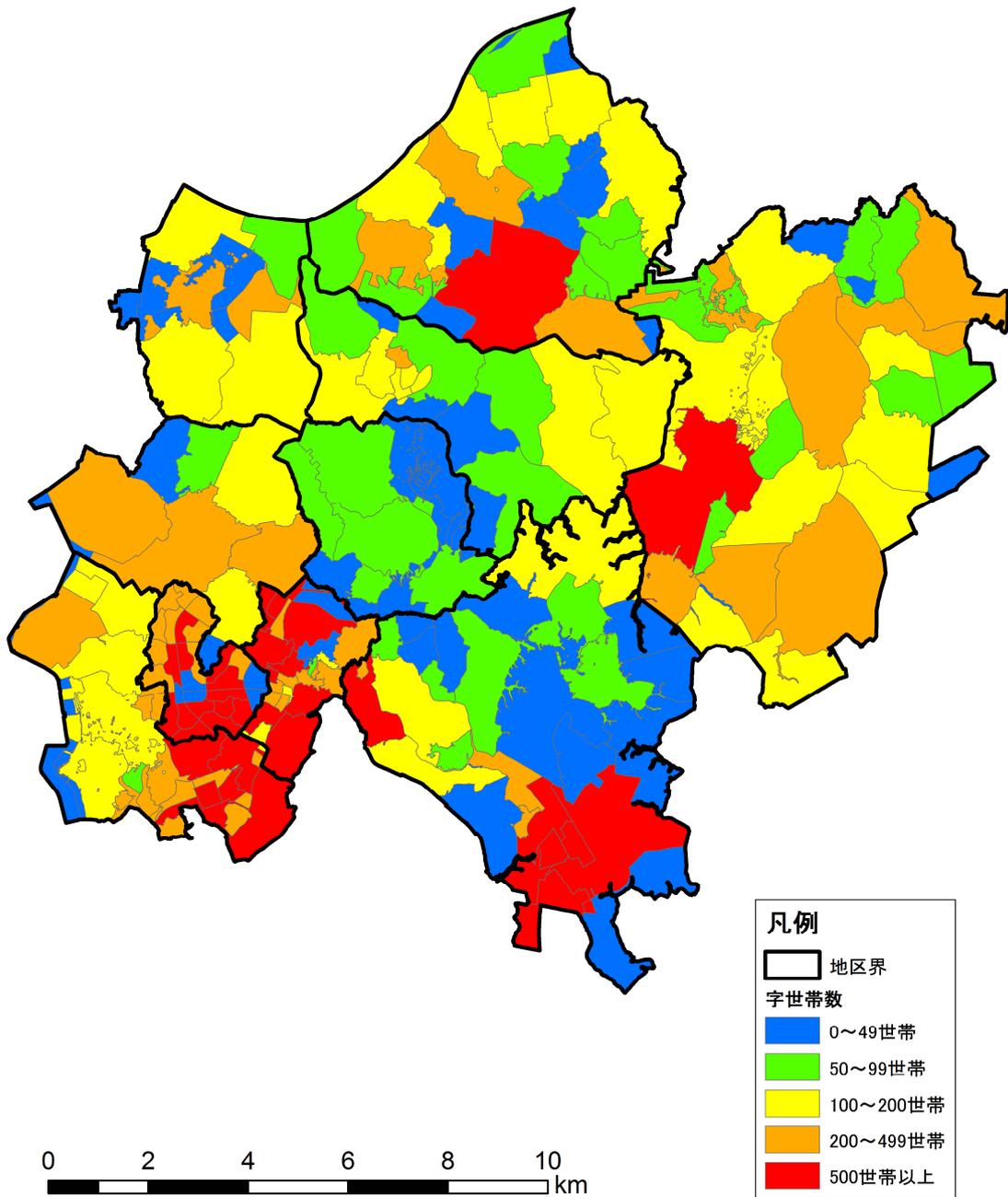


图 2.3.7 世带数分布图

(4) 人口集中地区

本市の人口集中地区の変遷及び区域を表 2.3.6、図 2.3.8に示す。

平成 27 年の人口集中地区（D I D地区）は、面積 22.62 km²、人口 80,812 人となっており、市面積の 10.6%に人口の 61.6%が集中している。

人口集中地区は拡大傾向にあり、平成 17 年から平成 22 年では、土地区画整理事業が完了した公津の杜地区、はなのき台地区等で拡大している。

表 2.3.6 人口集中地区の変遷

	市全域		人口集中地区（D I D）				
	人口 (人)	面積 (km ²)	人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)	全域に占める 人口集中地区の割合 (%)	
						人口	面積
平成 12 年	95,704	213.84	60,715	20.21	3,004	63.4	9.5
平成 17 年	100,717	213.84	65,479	21.07	3,108	65.0	9.9
平成 22 年	128,933	213.84	74,379	21.78	3,415	57.7	10.2
平成 27 年	131,190	213.84	80,812	22.62	3,573	61.6	10.6

出典) 国勢調査



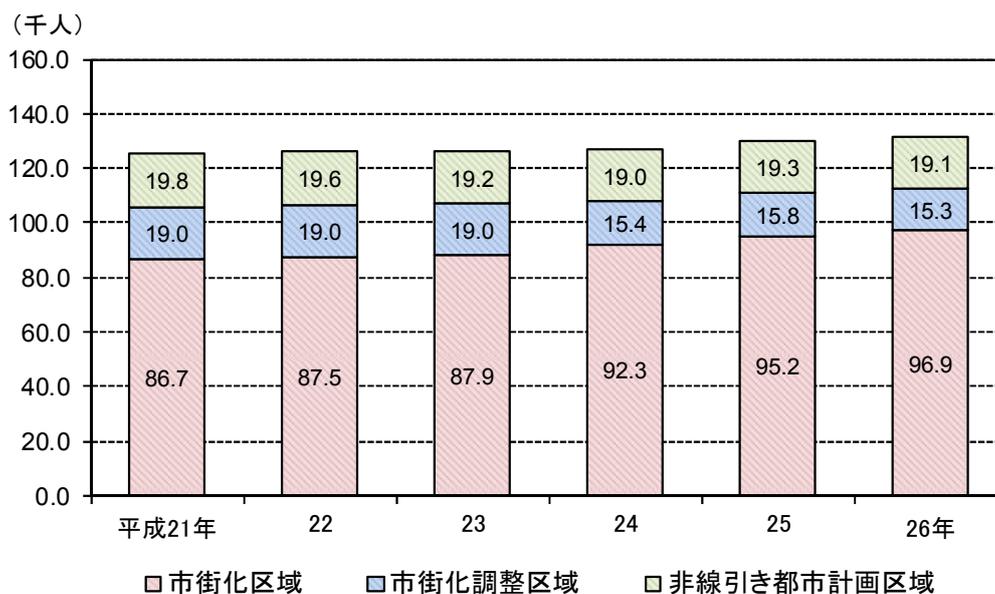
出典) 平成 22 年国勢調査

図 2.3.8 平成 22 年 人口集中地区（D I D）

(5) 都市計画区域区分別人口

本市の人口を都市計画区域区分別にみると、図 2.3.9のとおり、平成 26 年現在で、市街化区域居住人口が 96.9 千人（73.8%）、市街化調整区域居住人口が 15.3 千人（11.7%）、非線引き都市計画区域居住人口が 19.1 千人（14.5%）となっており、全人口の 7 割強が市街化区域に居住している。

また、その推移をみると、市街化区域居住人口は増加、市街化調整区域人口は減少、非線引き都市計画区域人口は横ばい傾向にある。



出典) 成田市都市計画現況調査

図 2.3.9 都市計画区域区分別人口の推移

(6) 昼夜間人口

本市の昼夜間人口の推移等を、表 2.3.7、図 2.3.10に示す。

平成 27 年における本市の夜間人口（常住人口）は 131,190 人、昼間人口（従業地・通学地による人口）は 162,211 人となっており、昼間における流出・流入人口はそれぞれ 23,757 人、54,778 人で、流入人口の方が上回っている。

平成 27 年の昼夜間人口比率（夜間人口 100 人当たりの昼間人口）は 123.6%で、前回調査時よりも 3.1 ポイント低下したものの、流入超過の傾向が続いている。

表 2.3.7 昼夜間人口の推移

	夜間人口 ①	流出人口 ②	流入人口 ③	昼間人口 ①-②+③=④	昼夜間人口比率 ④/①×100
平成 7 年	91,450	19,568	52,580	124,462	136.1%
平成 12 年	95,608	19,882	59,480	135,206	141.4%
平成 17 年	100,717	20,585	62,065	142,197	141.2%
平成 22 年	128,933	22,860	57,233	163,306	126.7%
平成 27 年	131,190	23,757	54,778	162,211	123.6%

出典) 国勢調査

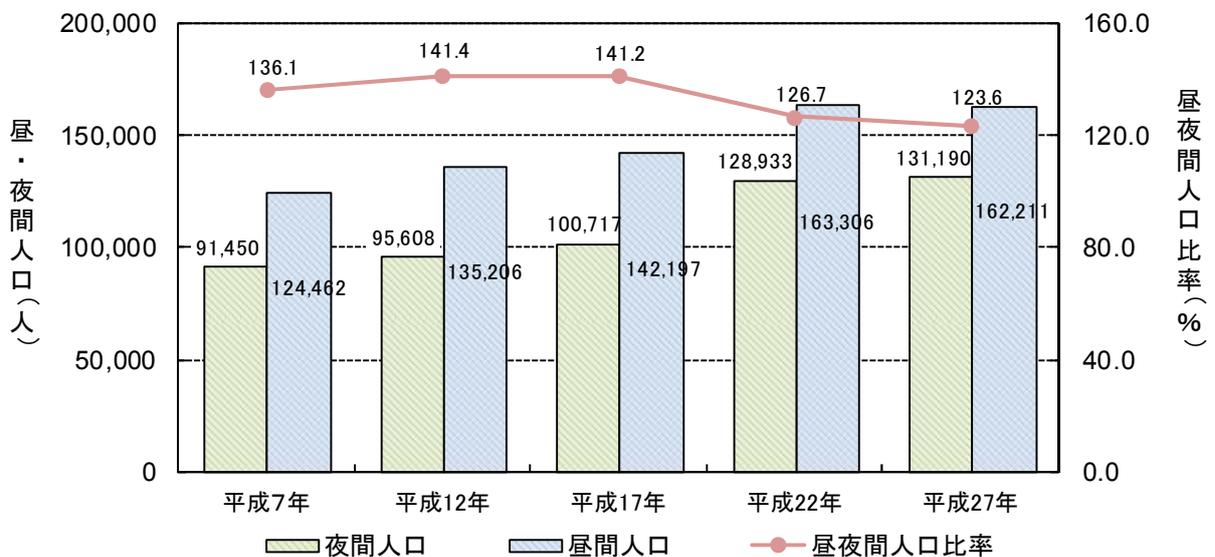


図 2.3.10 昼夜間人口及び昼夜間人口比率の推移

また、他都市から本市への通勤・通学者をみると、表 2.3.8のとおり、富里市が 6,850 人で最も多く、次いで香取市の 4,980 人、佐倉市の 4,662 人となっている。

一方、本市から他都市への通勤・通学者では、東京都特別区部が 3,729 人で最も多く、次いで千葉市の 2,912 人、富里市の 2,517 人となっている。

以上から、通勤・通学流動では、上記の都市との結びつきが強いことがうかがえる。

表 2.3.8 通勤・通学による流入・流出先別人口（平成 27 年）

	流出人口（人）	流入人口（人）	差引（人）
千葉市	2,912	3,263	351
佐倉市	2,146	4,662	2,516
八千代市	703	2,101	1,398
八街市	477	2,623	2,146
印西市	950	2,216	1,266
富里市	2,517	6,850	4,333
香取市	1,289	4,980	3,691
酒々井町	699	2,125	1,426
栄町	556	2,755	2,199
芝山町	1,146	777	△ 369
東京都特別区部	3,729	2,020	△ 1,709
その他	6,633	20,406	13,773
計	23,757	54,778	31,021

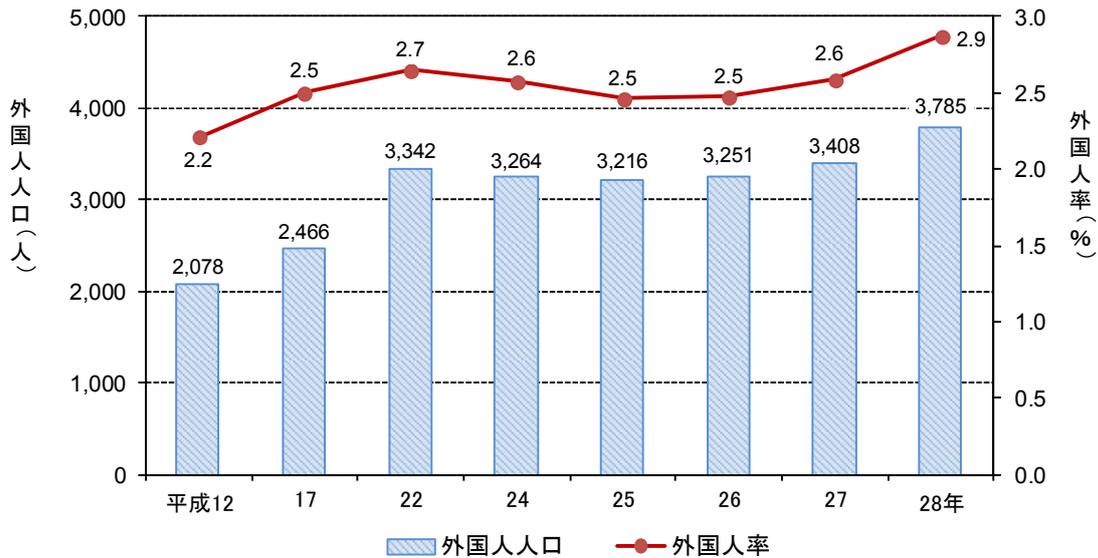
出典) 国勢調査

(7) 外国人人口

本市の外国人人口の現状を図 2.3.11、図 2.3.12に示す。

平成 28 年現在の外国人人口は 3,785 人で、市全体人口に占める割合は 2.9%となっており、人口、市全体人口に占める割合共に増加傾向にある。

また、外国人人口の国別構成をみると、中国が 22.9%を占め最も多く、次いでフィリピン (17.2%)、「韓国・朝鮮」(10.8%)と続いており、上位 5 か国 (中国、フィリピン、韓国・朝鮮、ペルー、タイ) で全体の約 70%を占めている。



※各年 3 月末現在

出典) 成田市統計書 (平成 28 年版)

※平成 24 年 7 月 9 日施行の住民基本台帳法一部改正に伴い、外国人登録制度が廃止され、外国人についても住民基本台帳の適用対象となった。このため、外国人人口は、平成 24 年 7 月末日現在の人口からは、住民基本台帳に登録された人口となる。これにより、平成 23 年以前のデータと単純に比較することはできない。

図 2.3.11 外国人人口の推移

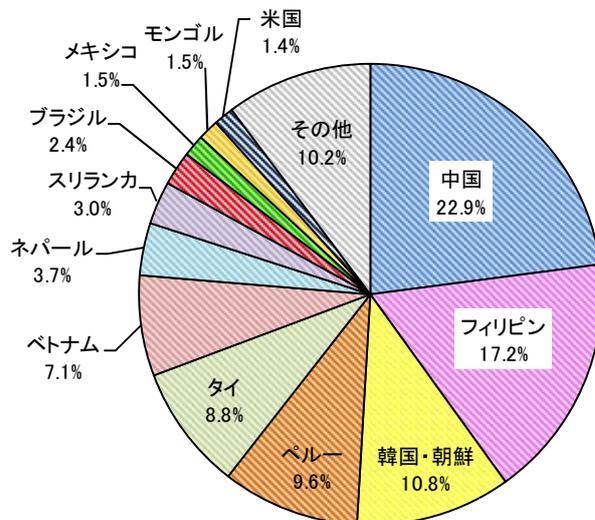


図 2.3.12 外国人人口の国別構成 (平成 28 年 3 月末現在)

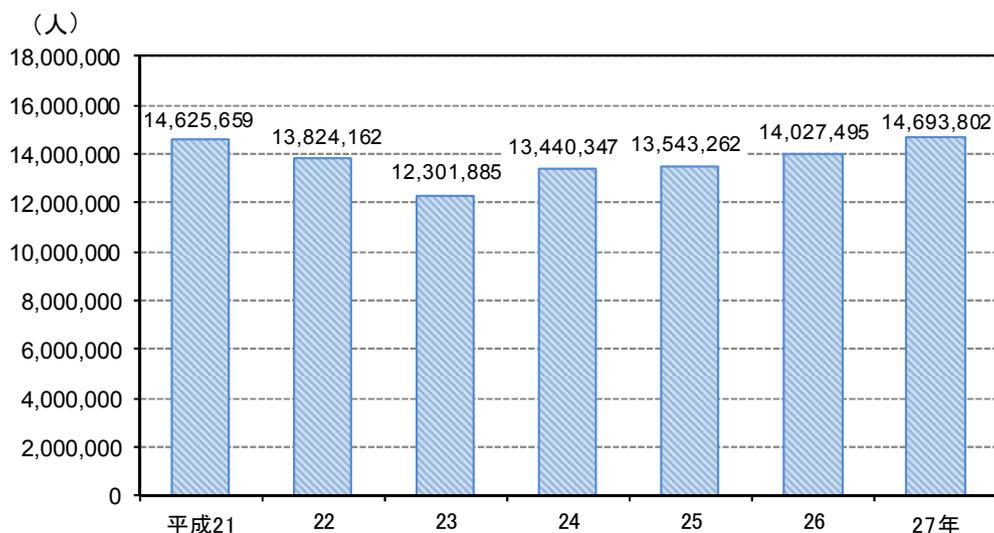
出典) 成田市統計書 (平成 28 年版)

(8) 観光入込み客数

本市の観光入込み客数の現状及び推移を、図 2.3.13、表 2.3.9、表 2.3.10に示す。

平成28年現在の観光入込み客数は約1,478.5万人で、前年度より約9万人上回り、平成24年度以降、堅調に増加傾向で推移している。

また、宿泊・日帰り別入込み客数では、日帰りが約8割を占めており、目的別では文化・歴史が9割近くを占め圧倒的に多い。



出典) 平成21年観光入込調査 (平成22年8月、千葉県観光課)
平成22年観光入込調査 (平成23年11月、千葉県観光課)
平成23年千葉県観光入込調査報告書 (平成24年10月、千葉県観光企画課)
平成24年千葉県観光入込調査報告書 (平成26年3月、千葉県観光企画課)
平成25年千葉県観光入込調査報告書 (平成26年9月、千葉県観光企画課)
平成26年千葉県観光入込調査報告書 (平成27年12月、千葉県観光企画課)
平成27年千葉県観光入込調査報告書 (平成28年10月、千葉県観光企画課)
平成28年千葉県観光入込調査報告書 (平成29年9月、千葉県観光企画課)

図 2.3.13 本市の観光入り込み客数の推移

表 2.3.9 日帰り・宿泊別及び目的別観光入込み客数の推移

(人)

		平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
日帰り・ 宿泊	宿泊客	2,303,850	2,457,597	2,062,211	2,382,366	2,457,157	2,596,368	2,998,734	3,078,188
	日帰り客	12,321,809	11,366,565	10,239,674	11,057,981	11,086,105	11,431,127	11,695,068	11,706,418
	合計	14,625,659	13,824,162	12,301,885	13,440,347	13,543,262	14,027,495	14,693,802	14,784,606
目的別	自然	0	0	0	0	0	0	0	0
	文化・歴史	12,703,920	12,253,118	10,889,160	11,721,641	11,802,540	12,117,389	12,555,736	12,585,833
	温泉・健康	0	0	0	0	0	0	0	0
	スポーツ・レクリエーション	608,288	489,059	420,430	436,210	428,622	438,007	485,066	500,623
	行・祭事	900,853	559,000	590,500	594,000	620,500	555,000	1,569,500	1,615,530
	イベント	74,500	429,785	348,575	623,696	616,000	805,000	0	0
	その他	338,098	93,200	53,220	64,800	75,600	112,099	83,500	82,620
	合計	14,625,659	13,824,162	12,301,885	13,440,347	13,543,262	14,027,495	14,693,802	14,784,606

出典) 平成 21 年観光入込調査 (平成 22 年 8 月、千葉県観光課)、平成 22 年観光入込調査 (平成 23 年 11 月、千葉県観光課)
 平成 23 年千葉県観光入込調査報告書 (平成 24 年 10 月、千葉県観光企画課)、平成 24 年千葉県観光入込調査報告書 (平成 26 年 3 月、千葉県観光企画課)、平成 25 年千葉県観光入込調査報告書 (平成 26 年 9 月、千葉県観光企画課)、平成 26 年千葉県観光入込調査報告書 (平成 27 年 12 月、千葉県観光企画課)、平成 27 年千葉県観光入込調査報告書 (平成 28 年 10 月、千葉県観光企画課)、平成 28 年千葉県観光入込調査報告書 (平成 29 年 9 月、千葉県観光企画課)

次に、主要観光施設の入込み客数をみると、成田山新勝寺が 1,106 万人と圧倒的に多く、以下は宗吾霊堂、成田祇園祭、成田太鼓祭、成田山紅葉まつり等が上位を占めている。

表 2.3.10 主要観光施設の入込み客数 (延べ人数)

(万人)

	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
成田山新勝寺	1,141	1,079	957	998	1,036	1,066	1,106	1,112
宗吾霊堂	116	109	97	141	105	108	112	113
成田祇園祭	42	45	48	45	45	43	48	45
成田太鼓祭	21	22	—	—	22	23	23	23
成田山紅葉まつり	—	—	1	30	30	34	35	36

※—は、統計データなし。

出典) 平成 22 年観光入込調査 (平成 23 年 11 月、千葉県観光課)、平成 24 年千葉県観光入込調査報告書 (平成 26 年 3 月、千葉県観光企画課)、平成 26 年千葉県観光入込調査報告書 (平成 27 年 12 月、千葉県観光企画課)、平成 28 年千葉県観光入込調査報告書 (平成 29 年 9 月、千葉県観光企画課)

2.3.3 防災組織体制の現況

(1) 消防体制

本市の消防体制を表 2.3.11に示す。

1 本部 4 署 4 分署で、233.74 km²（神崎町 19.9 km²含む）の行政区域を管轄し、非常備消防力は、消防団 12 分団（94 部数）の配置により、行政区域内住民を災害から守ることを任務としている。

表 2.3.12、表 2.3.13に、消防署及び消防団の職員数（団員数）及び車両配置状況を整理した。

表 2.3.11 消防署の状況

（平成 28 年 4 月 1 日現在）

種 別	施設数	名称等
消防本部	1	成田市消防本部
消防署	4	成田消防署、赤坂消防署 三里塚消防署、大栄消防署
分署	4	飯岡分署、公津分署、 下総分署、空港分署

出典）消防年報（平成 27 年度版、成田市消防本部）

表 2.3.12 常備消防の職員数及び車両配置状況

（平成 28 年 4 月 1 日現在）

区分/所属	計	本部	成田署	赤坂署	三里塚署	大栄署	飯岡分署	公津分署	空港分署	下総分署
職員数（人）	250	46	50	38	31	25	12	20	8	20
ポンプ車	5		1	1	1	1				1
水槽付ポンプ車	9		2	2	2	1	1	1		
化学消防車	3		1		1					1
梯子付消防車	2		1	(屈折) 1						
救急車	9		(高規格) 2	(高規格) 1						
救助工作車	1		1							
電源照明車	1					1				
資機材搬送車	1	1								
指揮車	6	2	1	1	1	1				
広報車	6	2					1	1	1	1
計	43	5	9	6	6	5	3	3	2	4

出典）消防年報（平成 27 年度版、成田市消防本部）

表 2.3.13 消防団の状況

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

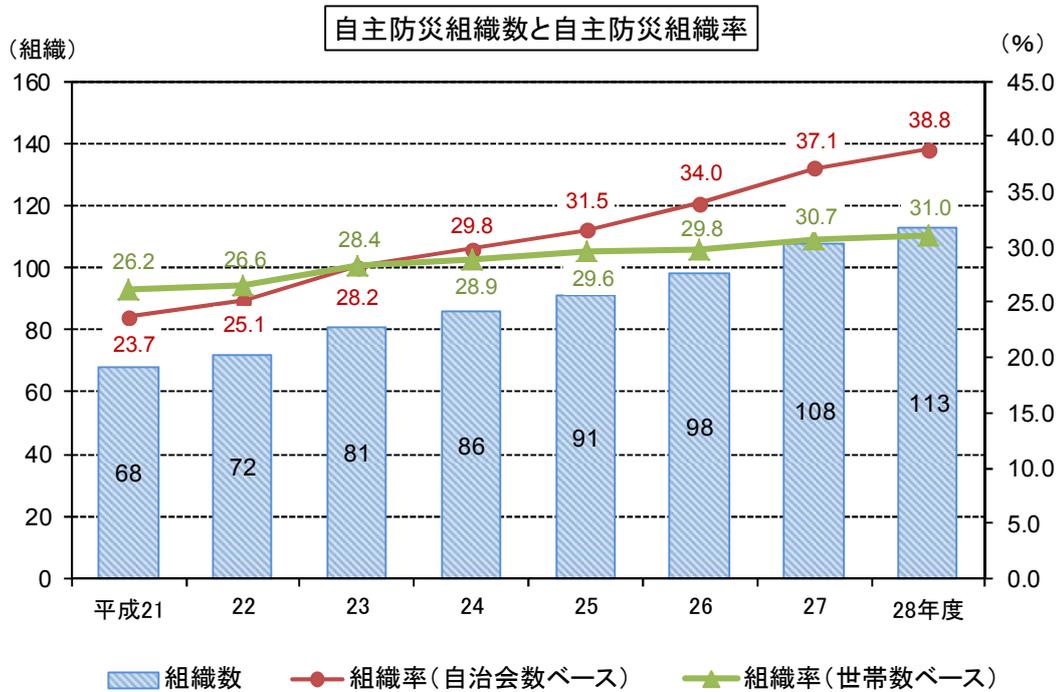
	合計	本部 役員	1分団 成田	2分団 公津	3分団 八生	4分団 中郷	5分団 久住	6分団 豊住	7分団 遠山	8分団 滑川・ 小御門	9分団 高岡・ 名木	10分団 大須賀 ・桜田	11分団 津富浦	12分団 前林・ 川上
部数	94		9	11	7	7	11	7	11	6	5	6	7	7
団員数	1,398	10	148	170	104	93	148	85	144	119	97	91	95	94
消防 ポンプ車	19		6	4	2	2	1	1		2		1		
水槽付消防 ポンプ車	1								1					
小型ポン プ積載車	77		3	7	6	6	10	6	11	4	5	5	7	7
計	97		9	11	8	8	11	7	12	6	5	6	7	7

出典) 成田市消防団編成表

(2) 自主防災組織

自主防災組織の結成状況を、図 2.3.14、表 2.3.14に示す。

平成 28 年度（平成 29 年 3 月末）現在の組織数は 114、組織率は、自治会数ベースで 39.2%、世帯数ベースで 30.7%となっており、組織数、組織率共に概ね増加傾向で推移している。



出典) 成田市

図 2.3.14 自主防災組織数と自主防災組織率の推移

表 2.3.14 地区別の自主防災組織の結成状況

(平成 29 年 3 月現在)

番号	地区	名称	設立年度	加入世帯数	地区全体
1	成田	上町自主防災会	H8	220	自主防災組織数：23 加入世帯数：5,065 自主防災組織率：48.8%
2	成田	仲町自主防災会	H9	30	
3	成田	不動ヶ岡論田自主防災会	H9	80	
4	成田	美郷台 3 丁目自主防災会	H9	415	
5	成田	本町自主防災会	H10	53	
6	成田	幸町自主防災会	H10	350	
7	成田	郷部第 2 町内会自主防災会	H10	130	
8	成田	新町区自主防災会	H11	110	
9	成田	土屋区自主防災会	H11	645	
10	成田	美郷台 1 丁目自主防災会	H12	225	
11	成田	囲護台区自主防災会	H13	630	
12	成田	クイーンズタウン自治会自主防災会	H14	20	
13	成田	美郷台 2 丁目自主防災会	H16	260	
14	成田	東町自主防災会	H17	240	
15	成田	田町区自主防災会	H18	165	
16	成田	郷部区自主防災会	H19	430	
17	成田	花崎町 1 区自主防災会	H19	100	
18	成田	花崎町 2 区自主防災会	H19	250	
19	成田	花崎町 3 区自主防災会	H19	80	
20	成田	花崎町 4 区自主防災会	H19	135	
21	成田	花崎町 5 区自主防災会	H19	115	
22	成田	寺台区自主防災会	H20	290	
23	成田	馬橋区自主防災会	H20	92	
24	公津	宗吾台自治会自主防災会	H12	251	自主防災組織数：16 加入世帯数：4,582 自主防災組織率：33.2%
25	公津	公津の杜 5 丁目自主防災会	H16	152	
26	公津	並木町 1 区自主防災・防犯会	H17	722	
27	公津	飯田町区自主防災会	H20	700	
28	公津	宗吾区自主防災会	H20	324	
29	公津	下方区自主防災会	H20	70	
30	公津	成田はなのき台自治会自主防災会	H21	943	
31	公津	α グランデ参番街自主防災会	H21	101	
32	公津	台方自主防災会	H21	160	
33	公津	公津の杜 2 丁目第 2 自治会自主防災会	H22	217	
34	公津	公津の杜第 1 自治会自主防災会	H23	138	
35	公津	ライオンズガーデンシティ成田自主防災会	H23	196	
36	公津	北須賀区自主防災会	H23	172	
37	公津	八代区自主防災組織	H24	150	
38	公津	公津の杜一丁目自治会自主防災会	H25	201	
39	公津	公津の杜二丁目第一自治会自主防災会	H25	85	
40	八生	下福田区自主防災会	H11	60	自主防災組織数：1 加入世帯数：60 自主防災組織率：4.3%

番号	地区	名称	設立年度	加入世帯数	地区全体
41	中郷	西和泉区自主防災会	H12	9	自主防災組織数：6 加入世帯数：239 自主防災組織率：49.7%
42	中郷	赤萩区自主防災会	H15	56	
43	中郷	野毛平区防災会	H21	38	
44	中郷	下金山自主防災会	H22	32	
45	中郷	東和泉自主防災会	H26	20	
46	中郷	新妻防災会	H27	84	
47	久住	荒海区自主防災会	H13	76	自主防災組織数：11 加入世帯数：747 自主防災組織率：43.3%
48	久住	小泉区自主防災会	H13	57	
49	久住	大室二区自主防災会	H14	56	
50	久住	芝区自主防災会	H15	80	
51	久住	幡谷区自主防災会	H17	69	
52	久住	飯岡区自主防災会	H20	80	
53	久住	成毛区自主防災会	H21	31	
54	久住	久住中央1丁目自主防災会	H23	88	
55	久住	土室区自主防災会	H25	45	
56	久住	磯部区自主防災会	H26	73	
57	久住	久住中央2丁目自主防災会	H26	92	
58	豊住	長沼区自主防災会	H21	108	自主防災組織数：7 加入世帯数：562 自主防災組織率：73.5%
59	豊住	竜台区自主防災会	H22	80	
60	豊住	北羽鳥北部自主防災会	H24	112	
61	豊住	南羽鳥区自主防災会	H26	107	
62	豊住	安西区自主防災会	H27	57	
63	豊住	北羽鳥南部区自主防災会	H27	85	
64	豊住	佐野区自主防災会	H27	13	
65	遠山	西三里塚区自主防災会	H8	305	自主防災組織数：11 加入世帯数：1,806 自主防災組織率：18.5%
66	遠山	吉倉区自主防災会	H11	68	
67	遠山	新駒井野区自主防災会	H11	48	
68	遠山	東和田区自主防災会	H12	196	
69	遠山	本三里塚区自主防災会	H13	350	
70	遠山	三里塚区自主防災会	H14	340	
71	遠山	本城第1自治会自主防災会	H17	110	
72	遠山	三里塚光ヶ丘自主防災会	H19	67	
73	遠山	三里塚御料区自主防災会	H21	258	
74	遠山	大山区自主防災会	H23	17	
75	遠山	川栗区自主防災会	H23	47	
76	成田NT	成田吾妻宿舍自主防災会	H8	74	自主防災組織数：24 加入世帯数：4,347 自主防災組織率：29.4%
77	成田NT	玉一自主防災会	H10	263	
78	成田NT	神宮寺自治会自主防災会	H10	183	
79	成田NT	玉造セヴンタウン自治会自主防災会	H10	108	
80	成田NT	アルファグランデ成田自主防災会	H11	103	
81	成田NT	吾妻北第2住宅管理組合自主防災委員会	H14	268	
82	成田NT	玉造7丁目自治会自主防災会	H17	101	
83	成田NT	吾妻南住宅防災会	H18	159	
84	成田NT	橘賀台2丁目町内会自主防災会	H18	224	
85	成田NT	吾妻1丁目町内会自主防災会	H18	320	
86	成田NT	アルファグランデ式番街自主防災会	H18	195	
87	成田NT	成田第2県営住宅自治会防災会	H20	202	
88	成田NT	中台6丁目町内自主防災会	H21	300	
89	成田NT	北中台自治会自主防災会	H23	175	
90	成田NT	吾妻北第一自主防災会	H23	237	
91	成田NT	アルファグランデ成田VI番街	H24	236	

番号	地区	名称	設立 年度	加入世帯数	地区全体
92	成田 NT	アルファグランデ成田V番街	H24	101	
93	成田 NT	ルネ・マークプレミア成田ニュータウン自主防災会	H24	201	
94	成田 NT	吾妻3丁目自主防災会	H25	264	
95	成田 NT	玉造4丁目町内会自主防災会	H27	88	
96	成田 NT	中台3-2 自主防災会	H27	50	
97	成田 NT	橘賀台1丁目町内会自主防災会	H28	331	
98	成田 NT	玉造レインボーアベニュー自主防災会	H28	155	
99	成田 NT	成田ニュータウン郵政自主防災会	H25	9	
100	下総	三ツ矢団地自主防災会	H22	16	
101	下総	外記林自主防災会	H26	63	
102	下総	新宿区自主防災会	H26	21	
103	下総	成田市芙蓉邸街自主防災会	H27	127	
104	下総	青山区自主防災会	H28	25	
105	下総	倉水自主防災会	H28	12	
106	下総	中里区自主防災会	H28	18	自主防災組織数：8 加入世帯数：905 自主防災組織率：19.9%
107	大栄	一坪田区自主防災会	H20	103	
108	大栄	リバティヒル自治会自主防災会	H21	241	
109	大栄	吉岡第三自治会自主防災会	H23	190	
110	大栄	横山区自主防災会	H26	49	
111	大栄	村田区自主防災会	H27	46	
112	大栄	多良貝自主防災会	H27	111	
113	大栄	前林第一自主防災会	H27	120	
114	大栄	水の上自主防災会	H28	45	自主防災組織数：114 加入世帯数：18,595 自主防災組織率：30.7%
市全体					

※成田NT＝成田ニュータウン地区
 ※自主防災組織率は、世帯数ベースである。

出典) 成田市

2.3.4 土地利用状況

(1) 土地利用の現況

本市の土地利用の現況を、表 2.3.15、図 2.3.15に示す。

平成 28 年現在の地目別土地利用面積をみると、田・畑が 78.39 km²で全体の 36.7%を占め最も多く、次いで山林・原野、雑種地となっている。

また、宅地は 25.62 km²で、全体の 12.0%となっている。

地目別土地利用面積割合の推移をみると、田・畑、宅地は横ばい、山林・原野は微減、雑種地は微増傾向にある。

表 2.3.15 地目別土地利用面積の推移

(単位：km²)

	田・畑	宅地	山林・原野	雑種地	池沼	その他	総数
平成 24 年	78.56	25.34	46.63	45.44	0.60	17.27	213.84
平成 25 年	78.52	25.42	46.63	45.40	0.60	17.27	213.84
平成 26 年	78.49	25.50	46.61	44.50	0.59	18.15	213.84
平成 27 年	78.41	25.55	45.73	45.51	0.59	18.05	213.84
平成 28 年	78.39	25.62	45.48	45.82	0.53	18.00	213.84

出典) 成田市統計書(平成 28 年版)



図 2.3.15 地目別土地利用面積割合の推移

(2) 土地利用の変遷

自然災害は、宅地開発や地盤の改変と密接に関連しており、土地利用状況の変化によって災害状況や危険区域も変化する。

本市は、空港建設に伴うニュータウンや工業団地、交通網の整備等の関連事業の実施により、急速に都市化が進展した都市であり、面的整備事業地区においては、良好な住環境が形成されているが、防災上危険な住宅密集地区も点在しており、これらの地区においては、地震発生時には、建物倒壊や火災延焼の危険性が予想される。本項では、開発動向や農地転用状況を整理することで土地利用の変遷を把握する。

1) 開発動向

① 宅地開発

成田ニュータウン以外では、主に土地区画整理事業により宅地開発が行われてきた。(表 2.3.16、図 2.3.16)

【ステージⅠ (昭和時代)】

- ・昭和 26 年から昭和 44 年にかけて、J R 成田駅及び京成成田駅を取り囲むように宅地開発が行われた。
- ・成田国際空港関連就業者や空港建設に伴って流入する人々のための移住地区として、成田ニュータウンを整備し、昭和 47 年から入居を開始した。
- ・昭和 53 年から昭和 60 年にかけて、ニュータウン地区の拡大が行われた。
- ・成田地区において、昭和 60 年から土地区画整理事業により美郷台地区の区画整理が実施され、中心通りに商業施設が並ぶ振興住宅地が形成された。
- ・昭和 61 年から公津地区において、土地区画整理事業により京成本線公津の杜駅を中心に複合的な都市開発が進められた。

【ステージⅡ (平成時代)】

- ・久住地区において、平成 5 年から 22 年にかけて、久住駅前土地区画整理事業が実施された。
- ・平成 6 年に公津の杜駅が開業し、さらに平成 11 年に土地区画整理事業が完了して以来、駅前の商業施設の開業や小・中学校の開校、公津の杜複合施設の整備等により、計画的な市街地の形成が図られた。
- ・平成 22 年より、J R 成田駅東口において、J R 成田駅東口第二種市街地再開発事業やそれに伴う集合住宅の建設が進められた。
- ・京成成田駅東口周辺地区では、中心市街地における居住系の需要の高まりに対応するため、地区計画の変更の検討が進められるなど、都市型居住への土地利用転換が図られる。
- ・平成 26 年 5 月に「国家戦略特別区域 (国家戦略特区)」の指定を受け、公津の杜地区において、「国際医療学園都市」の実現を目指して、新たなまちづくりが進められている。

表 2.3.16 市内の土地区画整理事業の概要

■都市計画決定している土地区画整理事業（平成 24 年 3 月末現在）

地区名	事業主体	計画人口（人）	事業期間	面積（ha）
成田駅西口	成田市	2,350	S49.10～H2.3	23.5
京成成田駅東口	〃	780	S55.8～H7.3	6.5
成田第一	組合	6,020	S55.9～H4.3	60.2
公津東	〃	11,740	S61.9～H11.3	117.4
久住駅前	〃	3,700	H5.6～H22.3	53.6
公津西	〃	3,800	H13.7～H23.1	37.6

■都市計画決定していない土地区画整理事業

地区名	事業主体	計画人口（人）	事業期間	面積（ha）
土屋	組合	180	H4.10～H17.3	37.0
東和田・寺台	〃	613	H6.3～H11.10	6.1
土屋宮谷津	〃	216	H10.6～H14.3	2.7
土屋房谷津	〃	344	H12.7～19.10	3.4

出典）成田市の都市計画（平成 28 年 4 月、成田市都市部都市計画課）

② 工業団地・物流団地

市内の工業団地及び物流団地は、表 2.3.17のとおり、久住地区に野毛平工業団地、豊住地区に豊住工業団地、大栄地区に大栄工業団地、成田新産業パークが整備されている。

表 2.3.17 市内の工業団地・物流団地の概要

（平成 24 年 4 月 1 日現在）

	工業団地			物流団地
	野毛平工業団地	豊住工業団地	大栄工業団地	成田新産業パーク
地区名	久住	豊住	大栄	大栄
分譲開始	昭和 47 年	昭和 50 年	昭和 62 年	平成 16 年
面積（ha）	74.3	31.6	30.3	20.1
事業所数（社）	23	10	12	2
従業員数（人）	3,096	964	905	76

出典）成田市公共施設白書（平成 25 年 3 月、成田市企画政策課）

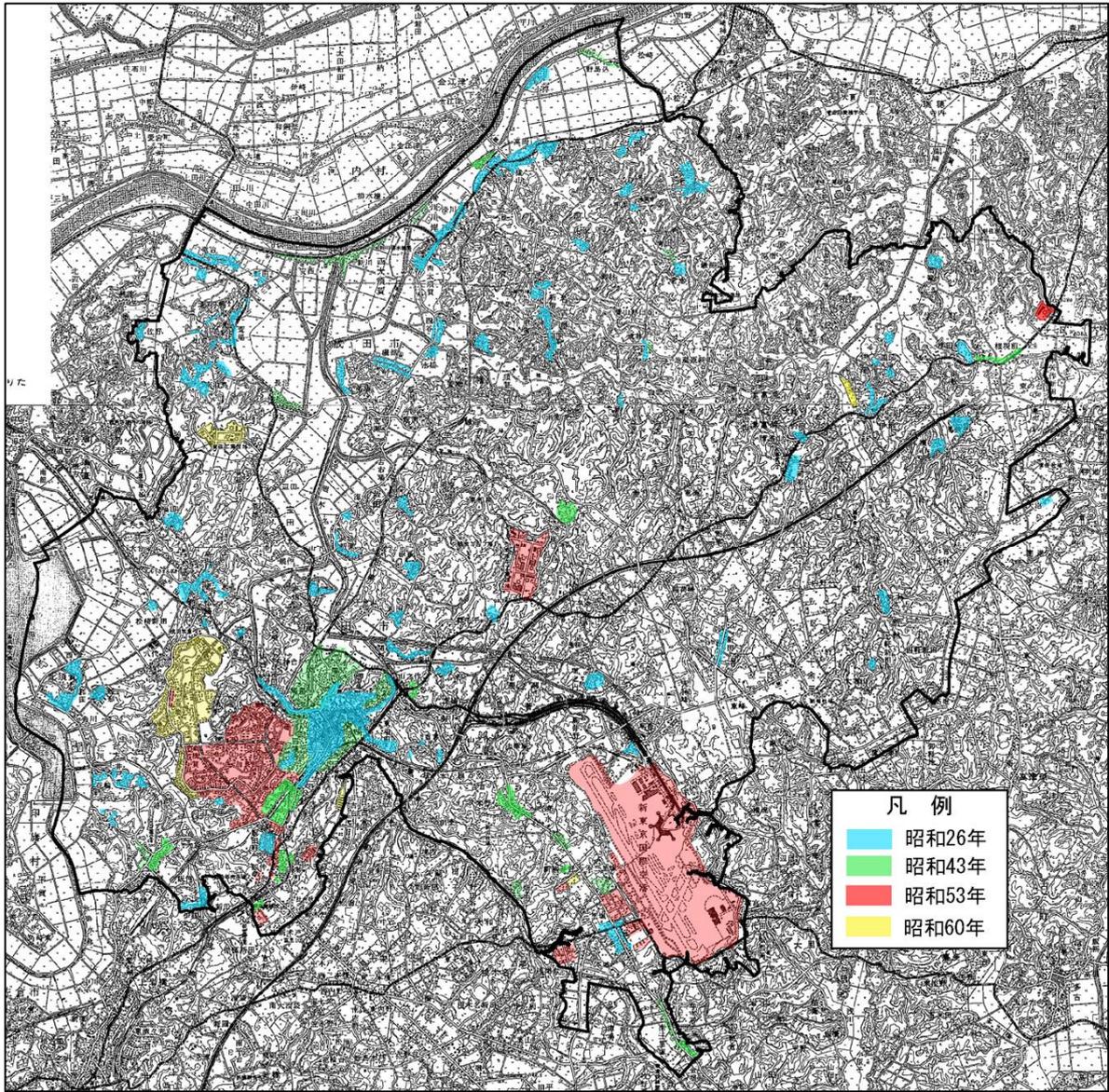


図 2.3.16 宅地開発等の変遷

2) 農地転用状況

本市の農地転用状況を、図 2.3.17、表 2.3.18に示す。

農地転用件数は、平成 22 年以降減少傾向にあったが、平成 25 年に増加に転じ、以降漸増傾向にあり、平成 27 年は 262 件となっている。

また、平成 27 年の農地転用面積は 1,476 a で、近年は 1,500 a 未満で推移している。用途別の転用状況では、その他を除くと、住宅用地と商業・サービス業施設用地が一貫して多くなっている。

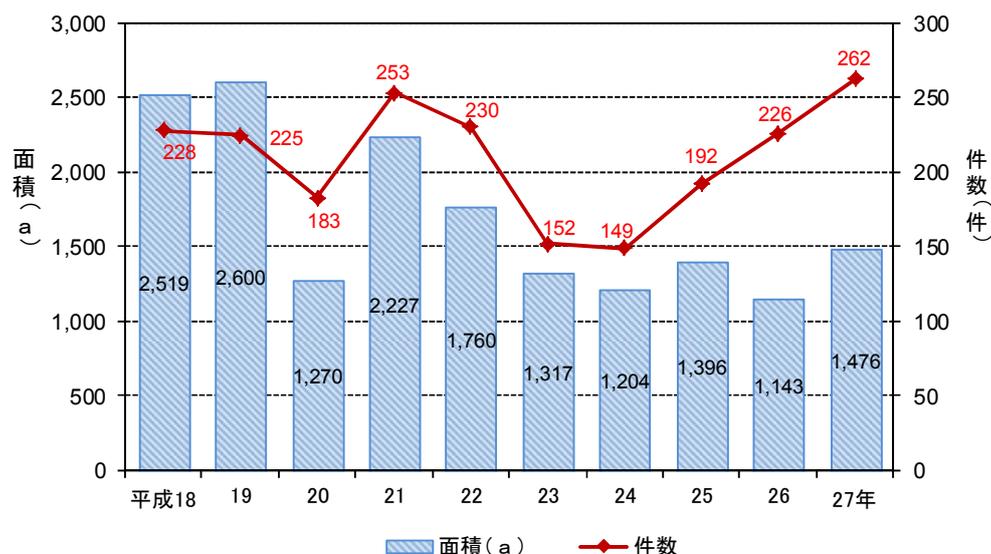


図 2.3.17 農地転用面積及び件数の推移

表 2.3.18 用途別の農地転用状況

(a)

		平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
建物面積	住宅用地	536	418	607	521	664	506	585	554	334	454
	工業用地	30	249	59	233	0	0	0	0	0	7
	学校用地	3	0	0	0	0	183	0	0	0	0
	商業・サービス業施設用地	659	92	63	111	260	210	55	461	88	68
	農林業施設用地	25	17	43	13	51	10	41	29	3	43
	その他の建物施設用地	592	401	12	242	564	404	483	318	710	898
建物外面積	公園・運動場用地	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	道路・水路・鉄道用地	128	188	10	198	221	4	9	11	8	6
	山林	20	39	11	34	0	0	31	23	0	0
	その他	500	1,196	465	875	0	0	0	0	0	0
面積合計 (a)		2,519	2,600	1,270	2,227	1,760	1,317	1,204	1,396	1,143	1,476
件数 (件)		228	225	183	253	230	152	149	192	226	262

出典) 成田市統計書 (平成 23 年版、平成 28 年版)

また、地区別の農地転用状況をみると、平成 18 年から平成 27 年までの合計面積では、
 図 2.3.18、表 2.3.19 のとおり、遠山地区が 5,305 a で最も多く、次いで大栄地区(3,523
 a)、公津地区(2,946 a)となっている。

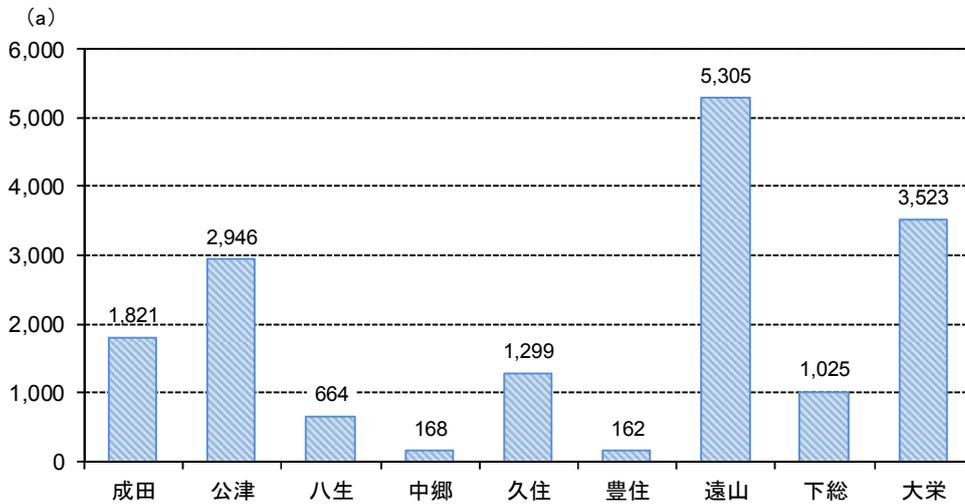


図 2.3.18 地区別の農地転用面積 (平成 18 年から平成 27 年の合計面積)

表 2.3.19 地区別の農地転用状況

(a)

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	合計
成田地区	218	153	89	151	225	124	292	180	213	176	1,821
公津地区	791	344	307	251	289	147	264	155	154	244	2,946
八生地区	34	84	42	116	105	38	27	59	118	41	664
中郷地区	24	12	2	39	36	13	5	0	29	8	168
久住地区	100	529	76	72	74	141	40	86	68	113	1,299
豊住地区	35	0	79	17	10	0	5	0	16	0	162
遠山地区	602	578	458	475	524	545	459	650	371	643	5,305
下総地区	42	38	25	242	257	212	54	78	39	38	1,025
大栄地区	673	862	192	864	240	97	58	188	135	214	3,523
合計	2,519	2,600	1,270	2,227	1,760	1,317	1,204	1,396	1,143	1,477	16,913

出典) 成田市統計書 (平成 23 年版、平成 28 年版)

(3) 土地利用に関する法規制

1) 市街化区域・用途地域

都市計画法に基づく本市の市街化区域及び用途地域を、表 2.3.20、図 2.3.19に示す。

本市では全域が都市計画区域であり、成田都市計画区域（13,127ha）、下総都市計画区域（3,200ha）、大栄都市計画区域（5,057ha）に分かれている。

このうち、成田都市計画区域のみ、区域区分を定めており、約 2,057ha が市街化区域に指定されている。

また、用途地域は全都市計画区域 21,384ha のうち、2,326ha で指定されている。内訳は、第一種低層住居専用地域が 920ha、第一種住居地域が 661ha、第一種中高層住居専用地域が 296ha となっており、住居系の用途地域が大半を占めている。

表 2.3.20 土地利用に関する法定面積（平成 28 年 3 月末現在）

種別		面積 (ha)	
都市計画区域面積	総面積	21,384	
	市街化区域	2,057	
	市街化調整区域	11,070	
	非線引都市計画区域	8,257	
	用途地域別	第一種低層住居専用地域	920
		第一種中高層住居専用地域	296
		第二種中高層住居専用地域	12
		第一種住居地域	661
		第二種住居地域	56
		準住居地域	28
		近隣商業地域	51
		商業地域	73
		準工業地域	55
		工業地域	33
工業専用地域	141		
合計	2,326		
防火地域		69.6	
準防火地域		27.0	
農地域面積 農業振興	総面積	17,973	
	農振農用地面積	6,333	
	その他	11,640	

※成田都市計画（富里市・栄町域分を除く）、下総都市計画、大栄都市計画の合計

出典）成田市の都市計画（平成 28 年 4 月、成田市都市部都市計画課）

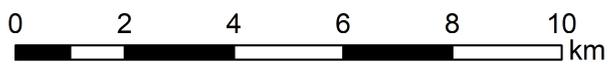
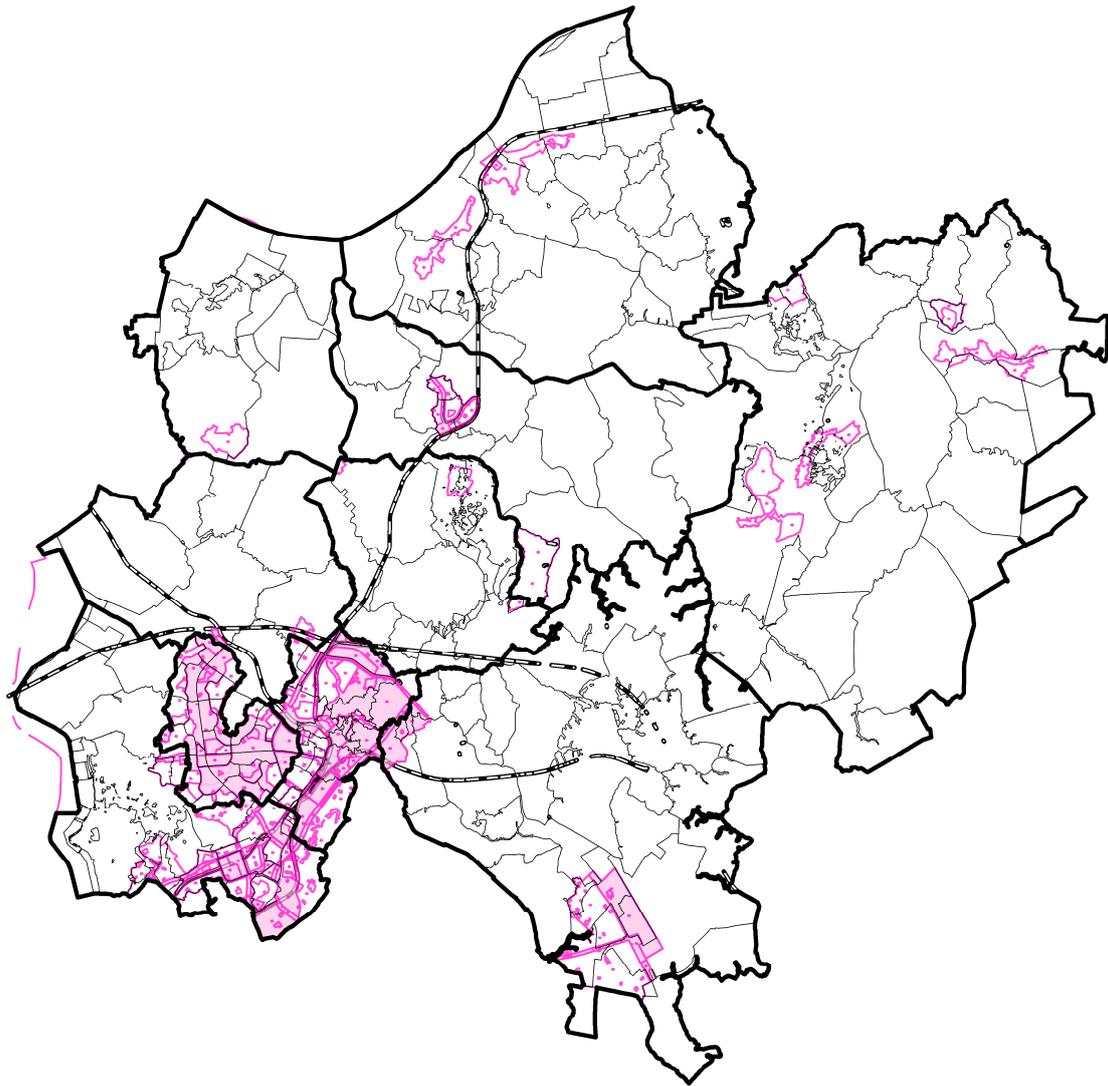


图 2.3.19 市街化区域图

2) 防火地域・準防火地域

都市計画法に基づく防火地域・準防火地域を、図 2.3.20に示す。

本市では、市街地における火災の危険を防除するため、平成 28 年 3 月末現在、商業地域の全域及び近隣商業地域の一部で防火地域 69.6ha、準防火地域 27.0ha を指定している。

表 2.3.21 防火地域・準防火地域内の制限

地域	耐火建築物としなければならないもの	耐火又は準耐火建築物としなければならないもの
防火地域	<ul style="list-style-type: none">・階数が 3 階以上のもの・延べ面積が 100 m²を超えるもの	<ul style="list-style-type: none">・その他の建築物
準防火地域	<ul style="list-style-type: none">・地上階が 4 階以上のもの・延べ面積が 1,500 m²を超えるもの	<ul style="list-style-type: none">・地上階が 3 階以上のもの・延べ面積が 500 m²を超え 1,500 m²以下のもの

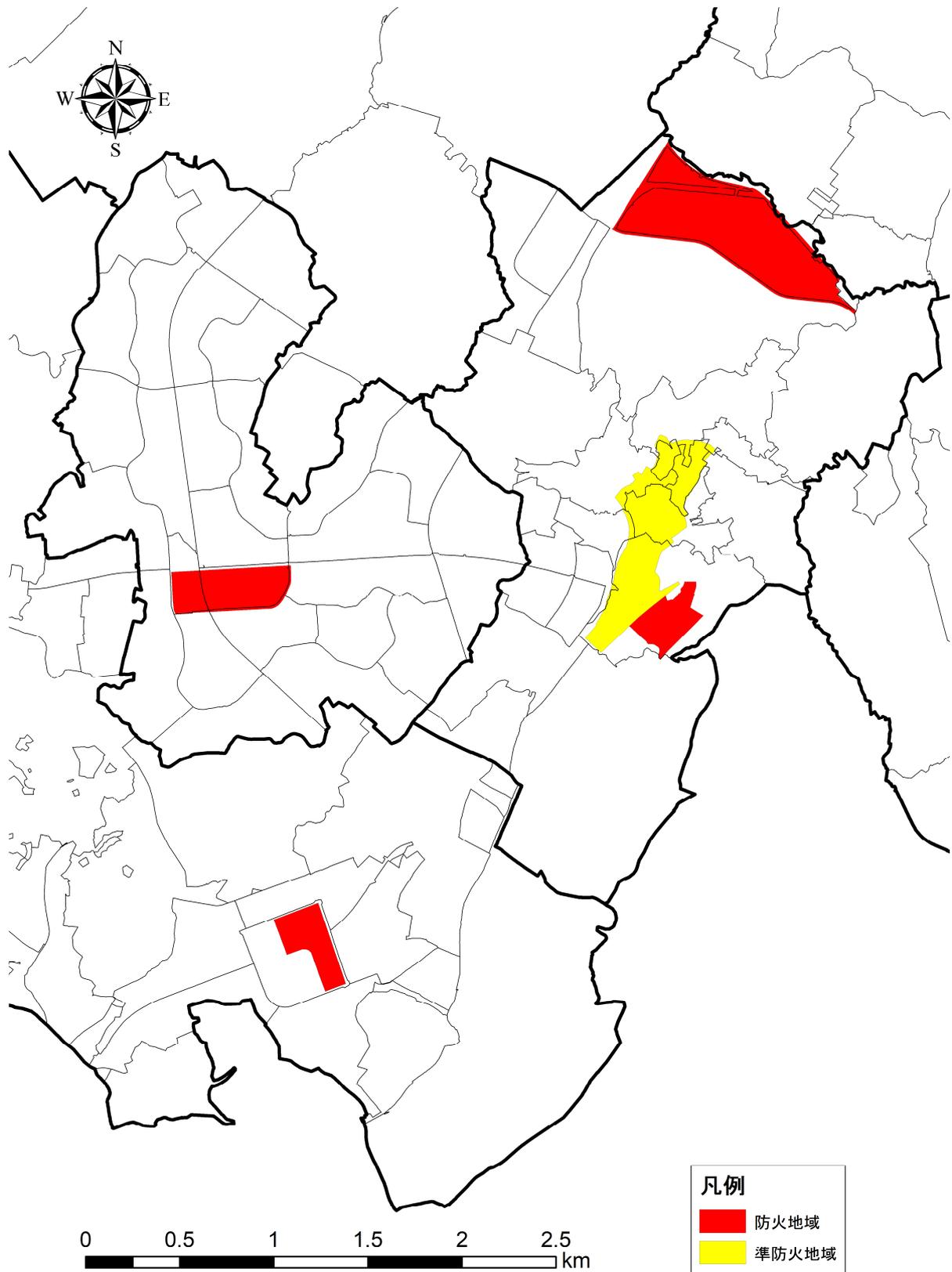


图 2.3.20 防火地域・準防火地域図

2.4 社会基盤の整備状況

(1) 道路・交通

1) 道路現況

市内の道路現況を、表 2.4.1、表 2.4.2、図 2.4.1に示す。

本市の道路網は、千葉・東京・茨城方面と広域的に連絡している「東関東自動車道」と成田国際空港と東関東自動車道を連結する「新空港自動車道」、首都圏の交通混雑の緩和等に寄与する「首都圏中央連絡自動車道（圏央道）」の高速道路3路線、県内外各地域をネットワークする国道7路線、それらと一体となって機能する主要地方道及び県道16路線に市道、農道が接続し、道路網を構成している。

市内の道路整備状況は、平成28年3月末現在で、総延長1,906.0km、舗装率86.1%となっている。

表 2.4.1 道路概況

(平成28年3月末現在)

区分	路線数	延長 (m)	舗装道 (m)	砂利道 (m)	舗装率 (%)
高速道路	3	28,337	28,337	—	100.0
国道	7	59,239	59,239	—	100.0
主要地方道	7	64,209	64,209	—	100.0
一般県道	9	26,618	26,618	—	100.0
市道	2,688	1,076,422	1,034,831	41,591	96.1
農道	2,583	651,205	428,243	222,962	65.8
総数	5,297	1,906,030	1,641,477	264,553	86.1

出典) 成田市統計書 (平成28年版)

表 2.4.2 主要道路一覧表

(平成28年3月末現在)

区分	路線名		延長 (m)
高速道路	東関東自動車道		15,131
	新空港自動車道		3,906
	圏央道		9,300
国道	国道51号		20,700
	国道295号		5,716
	国道296号		523
	国道356号		11,827
	国道408号		11,278
	国道409号		1,260
	国道464号		7,935
主要地方道	主要地方道18号	成田安食線	12,259
	主要地方道43号	八街三里塚線	1,763
	主要地方道44号	成田小見川鹿島港線	12,179

区分	路線名		延長 (m)
主要地方道	主要地方道 62 号	成田松尾線	6,451
	主要地方道 63 号	成田下総線	16,057
	主要地方道 70 号	大栄栗源干潟線	1,319
	主要地方道 79 号	横芝下総線	14,180
一般県道	県道 103 号	江戸崎下総線	1,908
	県道 106 号	八日市場佐倉線	1,532
	県道 110 号	郡停車場大須賀線	4,052
	県道 113 号	佐原多古線	3,261
	県道 115 号	久住停車場十余三線	6,954
	県道 137 号	宗吾酒々井線	789
	県道 161 号	成田滑河線	7,871
	県道 206 号	下総松崎停車場線	141
	県道 207 号	滑河停車場線	111

出典) 成田市統計書 (平成 28 年版)

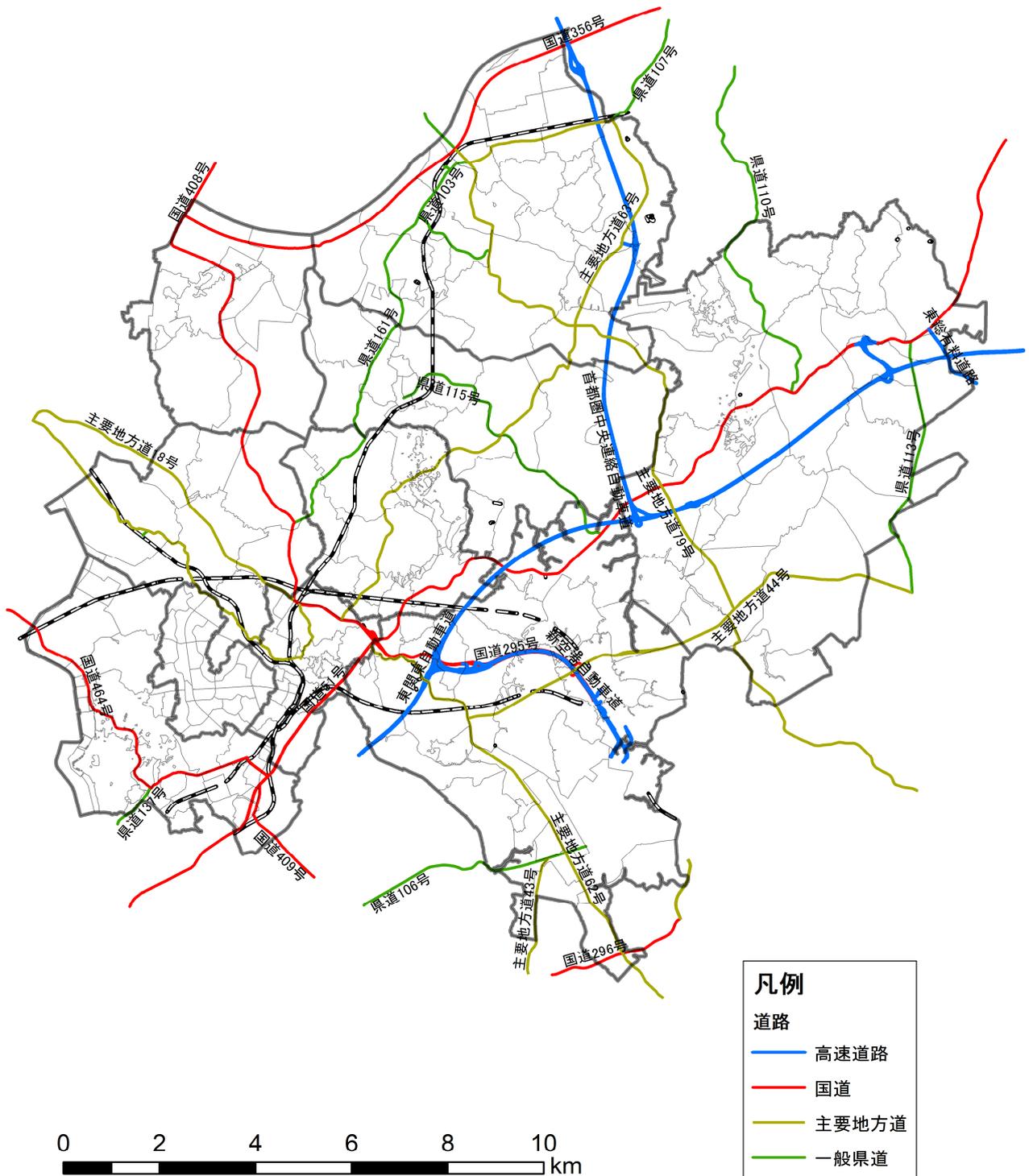


図 2.4.1 道路現況図

2) 緊急輸送道路

緊急輸送道路の現況を、表 2.4.3、図 2.4.2に示す。

県は、災害発生時の被災者の救援、緊急物資の輸送への対処を目的として千葉県内道路を緊急輸送道路1次路線と2次路線とに分類し、交通規制の対象とする緊急輸送ネットワークを構築している。

表 2.4.3 緊急輸送道路一覧表

路線種別	路線名		管理者	車線数	
1次路線	高速道路	東関東自動車道	東日本高速道路(株)	4～6	
		新空港自動車道	〃	4	
	国道	国道 51 号	国	2～4	
		国道 295 号	県	4	
		国道 296 号	〃	2	
		国道 356 号	〃	2	
		国道 408 号	〃	2～4	
		国道 409 号	〃	2	
2次路線	有料道路	東総有料道路	千葉県道路公社	2	
	主要地方道	主要地方道 44 号	成田小見川鹿島港線	県	2
		主要地方道 62 号	成田松尾線	〃	2～4

出典) 千葉県県土整備部道路環境課

路線区分	目的
1次路線	隣接都県との連携強化及び県庁と主要都市等を相互に結ぶ高速道路、一般国道及びこれらを連絡する幹線道路と、これらの道路から県の本庁舎及び県土整備部出先機関や空港及び主要港湾へ通じる道路等
2次路線	1次路線と市町村役場、主要な防災拠点を相互に連絡する幹線的な国・県道、市町村道

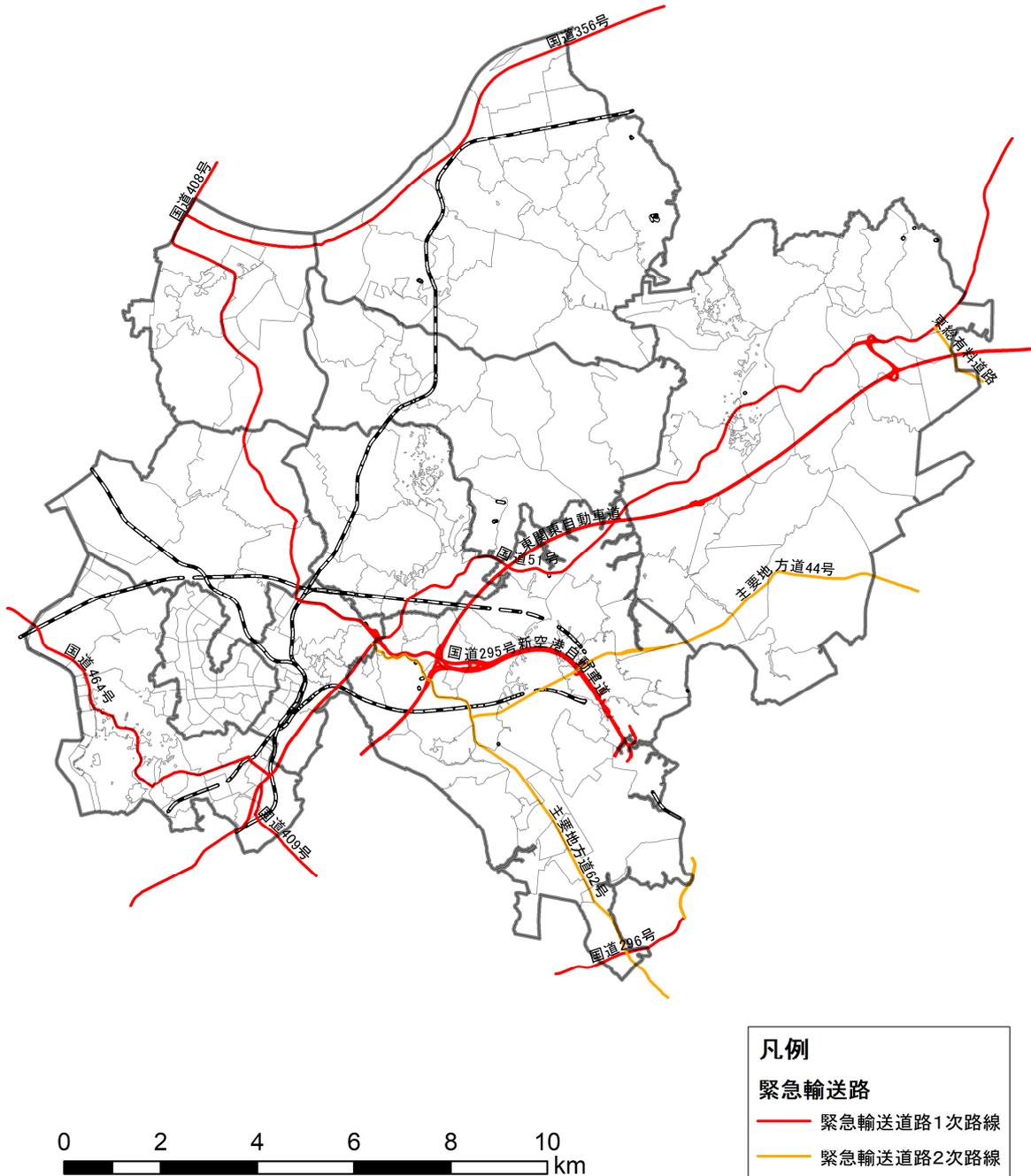


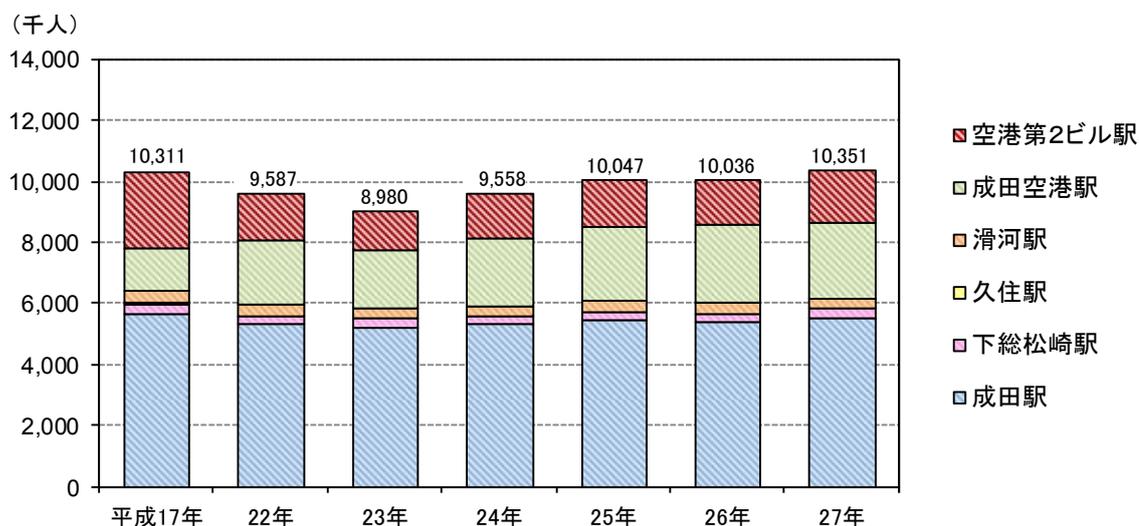
图 2.4.2 紧急輸送道路图

3) 鉄道

本市には、成田国際空港や広域的な地域をつなぐ都市の根幹的な公共交通として、J R成田線、京成本線、成田スカイアクセス線の3つの鉄道路線が走っている。

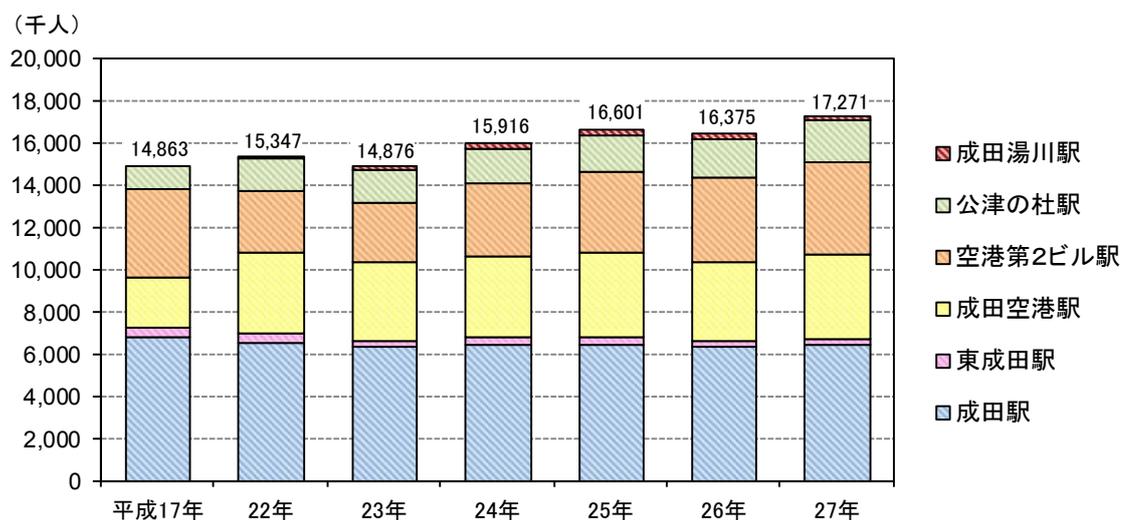
平成27年の年間乗車数を、図2.4.3、図2.4.4に示す。

J R成田線が10,351千人、京成電鉄が17,271千人で、年間乗車数は共に微増傾向にある。



出典) 成田市統計書 (平成28年版)

図 2.4.3 JR成田線の年間乗車数



※空港第2ビル駅は、平成4年12月3日開業、公津の杜駅は、平成6年4月1日開業
成田湯川駅は、平成22年7月17日開業

出典) 成田市統計書 (平成28年版)

図 2.4.4 京成電鉄の年間乗車数

4) 成田国際空港

成田国際空港の利用状況を、図 2.4.5、図 2.4.6に示す。

平成 27 年の航空機発着回数は、約 23.5 万回（国際線約 18.4 万回、国内線約 5.2 万回）と過去最高を記録した。また、航空旅客数は約 3,794.1 万人（国際線 3,105.6 万人、国内線 688.6 万人）、国際航空貨物量は 198.1 万 t となっている。

乗り入れ都市は、平成 27 年 3 月時点で、国際線が 37 か国 3 地域 107 都市、国内線が 17 都市 18 路線となっている（いずれも冬ダイヤ、成田国際空港(株)調べ）。

現在、成田国際空港では、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックと今後も増大すると見込まれる航空需要に対応するために、第 3 滑走路の整備をはじめとした様々な機能強化策の具体に向けた取組みが進められている。

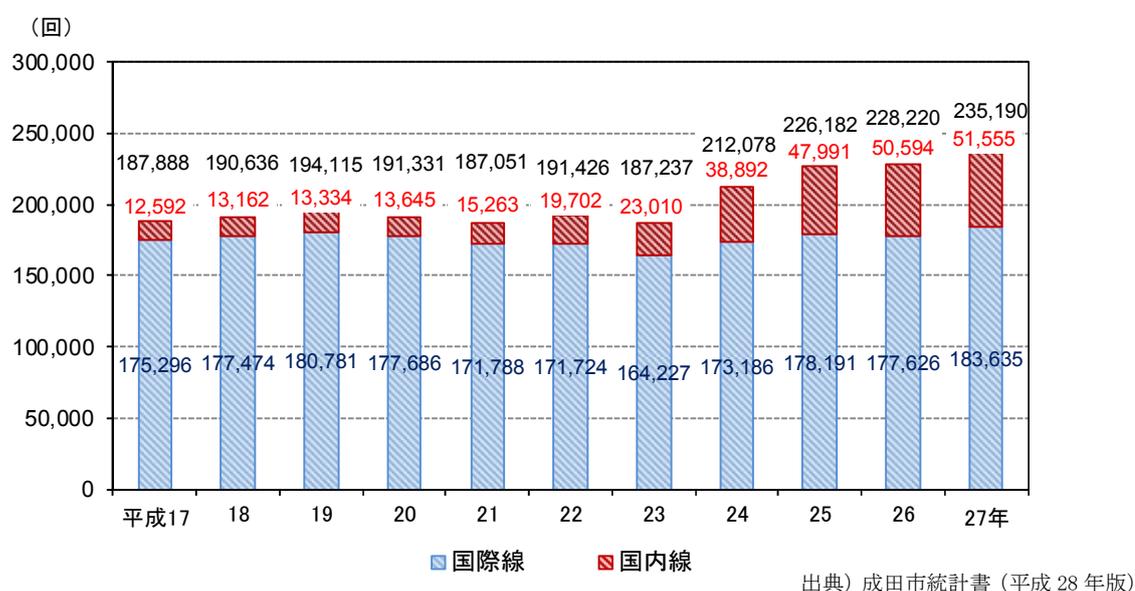


図 2.4.5 成田国際空港の航空機発着回数

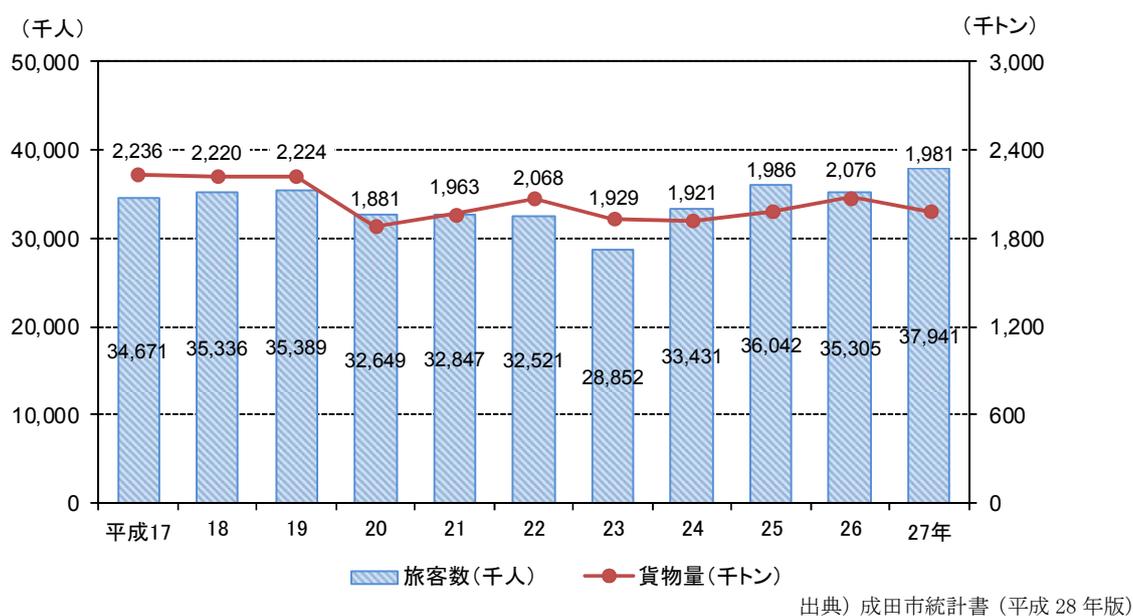


図 2.4.6 成田国際空港の旅客数及び貨物量の推移

2.5 公共的施設・防災拠点施設の設置状況

(1) 公共的施設

本市の主要な公共的施設を、表 2.5.1に示す。

表 2.5.1 公共的施設一覧表

種別	名 称	所 在 地	種別	名 称	所 在 地
市役所 支所	成田市役所	花崎町 760	小学校 (市立)	成田小学校	幸町 948-1
	下総支所	猿山 1080		遠山小学校	小菅 1411
	大栄支所	松子 366		三里塚小学校	本三里塚 153-1
消防本部 消防署	成田市消防本部	花崎町 760		久住小学校	久住中央 3-12-1
	成田消防署	花崎町 760		豊住小学校	北羽鳥 1985-2
	成田消防署飯岡分署	飯岡 107-3		八生小学校	松崎 1468
	赤坂消防署	赤坂 3-3		公津小学校	台方 851
	赤坂消防署公津分署	江弁須 98-1		向台小学校	中台 3-6
	三里塚消防署	三里塚 2		加良部小学校	加良部 6-8
	三里塚消防署空港分署	木の根 19		橋賀台小学校	橋賀台 3-4
	大栄消防署	津富浦 1230		新山小学校	加良部 4-23
大栄消防署下総分署	名木 1055-1	吾妻小学校		吾妻 2-6	
警察署 交番 駐在所	成田警察署	加良部 3-5		玉造小学校	玉造 3-4
	成田国際空港警察署	古込 133		中台小学校	中台 1-4
	赤坂交番	赤坂 1-2		神宮寺小学校	玉造 5-28
	公津の杜交番	公津の杜 4-4-5		平成小学校	飯仲 50-1
	三里塚交番	三里塚御料 1-211		本城小学校	本城 178-1
	成田駅前交番	花崎町 839-1		大須賀小学校	伊能 547
	久住駐在所	幡谷 919-1		桜田小学校	桜田 941
	小菅駐在所	小菅 564-1		前林小学校	前林 430
	豊住駐在所	北羽鳥 2190-3	津富浦小学校	津富浦 1093	
	十余三駐在所	十余三 13-35	川上小学校	多良貝 245-308	
	中郷駐在所	赤荻 1122-1	公津の杜小学校	公津の杜 3-2	
	伊能駐在所	伊能 412-7	美郷台小学校	美郷台 2-19-1	
	大和田駐在所	大和田 436-3	下総小学校(下総みどり学園)	名古屋 1214	
	吉岡駐在所	吉岡 66	小学校(私立)	成田高等学校附属小学校	田町 10
	名古屋駐在所	名古屋 910			
	滑川駐在所	西大須賀 1882-8			
	多良貝駐在所	多良貝 245-379			
	八生駐在所	松崎 242-11			
	千葉県警察北総地区少年センター	馬橋 8-1			

種別	名 称	所 在 地	種別	名 称	所 在 地
中学校 (市立)	成田中学校	土屋 928-1	保育園 (私立)	成田保育園	寺台 560
	遠山中学校	大清水 19		つのぶえ保育園	上町 711-4
	久住中学校	久住中央 2-1		大室保育園	大室 766-2
	西中学校	加良部 5-11		三里塚第一保育園	三里塚 191
	中台中学校	中台 4-2		月かげ保育園	西大須賀 1872-4
	吾妻中学校	吾妻 1-24		宗吾保育園	宗吾 2-276
	玉造中学校	玉造 3-7		三里塚第二保育園	三里塚 263-15
	下総中学校(下総みどり学園)	名古屋 1214		公津の杜保育園	公津の杜 2-24-1
	大栄中学校	伊能 125		ハレルヤ保育園	大袋 356-1
公津の杜中学校	公津の杜 5-29	小規模 保育施設	こひつじくらぶ	並木町 175-34	
中学校(私立)	成田高等学校附属中学校	成田 27	ひまわり保育園	囲護台 3-6-10	
高等学校 (県立)	成田西陵高等学校	松崎 20	病院	成田赤十字病院	飯田町 90-1
	成田国際高等学校	加良部 3-16		成田病院	押畑 896
	成田北高等学校	玉造 5-1		聖マリア記念病院	取香 446
	下総高等学校	名古屋 247		大栄病院	桜田 1137
高等学校(私立)	成田高等学校	成田 27	文化 施設	成田国際文化会館	土屋 303
幼稚園(市立)	大栄幼稚園	臼作 115		市立図書館(本館)	赤坂 1-1-3
				市立図書館(公津の杜分館)	(もりんぴあこづ内)
幼稚園 (私立)	成田幼稚園	上町 633-2		視聴覚サービスセンター	赤坂 1-1-3
	三里塚幼稚園	三里塚御料 1-674		中央公民館	赤坂 1-1-3
	はぼたん幼稚園	加良部 1-11		公津公民館	宗吾 1-839-1
	聖徳大学附属	中台 3-8		久住公民館	幡谷 922-2
	成田幼稚園	上町 633-2		橋賀台公民館	橋賀台 1-43-1
	くすのき幼稚園	船形 828		玉造公民館	玉造 7-21
	はしが台幼稚園	橋賀台 3-5		豊住公民館	北羽鳥 2024-1
	はくと幼稚園	吾妻 3-51		成田公民館	田町 299-2
	玉造幼稚園	玉造 1-3-1		八生公民館	松崎 317
公津の杜幼稚園	公津の杜 4-7-1	中郷公民館		赤荻 1587-1	
保育園 (公立)	長沼保育園	長沼 495-3		加良部公民館	加良部 3-4-1
	松崎保育園	松崎 2163-1		遠山公民館	大清水 48-7
	橋賀台保育園	橋賀台 2-23-1		下総公民館	高岡 1435
	赤荻保育園	赤荻 1042	大栄公民館	松子 393	
	中台保育園	中台 3-5	美郷台地区会館	美郷台 3-3-9	
	吾妻保育園	吾妻 2-7	生涯学習会館	花崎町 523-1	
	新山保育園	加良部 4-24	生涯大学校	囲護台 1385-6	
	玉造保育園	玉造 3-3	三里塚コミュニティセンター	三里塚 2	
	小御門保育園	名古屋 1144-1			
	高岡保育園	大和田 156			
	大栄保育園	一坪田 406-1			
	赤坂保育園	赤坂 2-1-1			

(2) 公園施設

公園施設を、表 2.5.2に示す。

公園施設は、総合公園 1 か所、運動公園 2 か所、地区公園 3 か所、近隣公園 13 か所、街区公園 114 か所の都市公園が整備されている。

表 2.5.2 公園施設一覧表

番号	区分	公園名	所在地	面積(m ²)
1	総合公園	坂田ヶ池総合公園	大竹 1450 番地	171,617.00
小計		1 公園		171,617.00
2	運動公園	大谷津運動公園	押畑 952 番地 3	98,000.00
3	"	中台運動公園	中台 5 丁目 2 番地	199,400.00
小計		2 公園		297,400.00
4	地区公園	赤坂地区公園	赤坂 1 丁目 2 番地	67,837.00
5	"	外小代地区公園	玉造 2 丁目 1 番地	46,936.00
6	"	三里塚記念公園	三里塚御料 1 番地 34	29,079.92
小計		3 公園		143,852.92
7	近隣公園	栗山近隣公園	花崎町 749 番地 1	15,660.00
8	"	松ノ下近隣公園	中台 3 丁目 7 番地	26,463.00
9	"	加良部台近隣公園	加良部 2 丁目 5 番地	44,292.00
10	"	橋賀台近隣公園	橋賀台 2 丁目 24 番地	52,571.00
11	"	引地近隣公園	吾妻 3 丁目 53 番地	40,507.00
12	"	戸崎近隣公園	玉造 4 丁目 43 番地	19,656.00
13	"	神宮寺近隣公園	玉造 7 丁目 13 番地	19,929.00
14	"	後谷津近隣公園	中台 2 丁目 23 番地	35,119.00
15	"	浅間近隣公園	郷部 1451 番地	11,622.00
16	"	公津の杜近隣公園	公津の杜 6 丁目 9 番地	38,542.00
17	"	三里塚第 1 公園	三里塚 2 番地	17,391.00
18	"	久住近隣公園	久住中央 3 丁目 4 番地	10,513.25
19	"	下総利根宝船公園	猿山 11 番地 9	15,757.26
小計		13 公園		348,022.51
20	街区公園	郷部街区公園	中台 3 丁目 10 番地	2,903.00
21	"	石橋台街区公園	中台 6 丁目 6 番地	5,020.00
22	"	池田街区公園	加良部 4 丁目 27 番地	2,257.00
23	"	池ノ尻街区公園	加良部 5 丁目 2 番地	2,082.00
24	"	大道通街区公園	加良部 5 丁目 13 番地	2,438.00
25	"	橋ノ尻街区公園	加良部 2 丁目 3 番地	2,431.00
26	"	八ツ又台街区公園	加良部 2 丁目 6 番地	2,639.00
27	"	向谷津街区公園	加良部 6 丁目 3 番地	3,543.00
28	"	渡り田街区公園	橋賀台 3 丁目 3 番地	1,311.00
29	"	地藏塚街区公園	橋賀台 2 丁目 22 番地	2,346.00
30	"	長原第一街区公園	本城 103 番地 2	2,800.00
31	"	長原第二街区公園	本城 106 番地 3	1,270.00
32	"	小牧第一街区公園	本城 32 番地 95	1,183.00
33	"	小牧第二街区公園	本城 32 番地 160	1,294.00
34	"	多代知街区公園	吾妻 2 丁目 5 番地	1,405.00
35	"	後原街区公園	玉造 4 丁目 20 番地	2,389.00
36	"	大山街区公園	中台 1 丁目 3 番地	2,184.00
37	"	一里塚街区公園	吾妻 2 丁目 4 番地	1,338.00
38	"	花内街区公園	玉造 2 丁目 8 番地	2,586.00
39	"	町山街区公園	玉造 1 丁目 2 番地	2,445.00

番号	区分	公園名	所在地	面積(m ²)
40	街区公園	谷津崎街区公園	中台6丁目40番地	1,742.00
41	〃	船塚台街区公園	中台2丁目24番地	2,804.00
42	〃	さぎ山第一街区公園	宗吾4丁目15番地3	2,512.00
43	〃	さぎ山第二街区公園	宗吾4丁目26番地1	1,078.00
44	〃	さぎ山第三街区公園	宗吾4丁目6番地11	714.00
45	〃	そり田第一街区公園	不動ヶ岡98番地19	1,002.00
46	〃	そり田第二街区公園	不動ヶ岡98番地31	607.00
47	〃	堤戸街区公園	玉造5丁目30番地	2,650.00
48	〃	新山街区公園	玉造6丁目10番地	2,052.00
49	〃	八代街区公園	玉造7丁目2番地	2,399.00
50	〃	押畑街区公園	美郷台2丁目24番地1	2,599.00
51	〃	北田街区公園	美郷台3丁目10番地1	2,000.00
52	〃	天神台街区公園	美郷台2丁目12番地1	2,400.00
53	〃	殿台街区公園	美郷台1丁目14番地1	2,000.00
54	〃	南台街区公園	郷部1389番地	1,997.00
55	〃	北囲護台街区公園	囲護台3丁目4番地4	1,499.00
56	〃	馬橋街区公園	馬橋6番地5	1,005.00
57	〃	南囲護台街区公園	囲護台1丁目8番地3	2,100.00
58	〃	玉造街区公園	玉造5丁目16番地	1,584.00
59	〃	吾妻街区公園	吾妻1丁目4番地9	977.00
60	〃	西三里塚街区公園	西三里塚1番地151	1,961.00
61	〃	琴平街区公園	公津の杜1丁目29番地	2,250.00
62	〃	中囲護台街区公園	囲護台2丁目10番地7	1,425.00
63	〃	東向野街区公園	飯田町202番地103	543.00
64	〃	南向野街区公園	公津の杜2丁目23番地	2,000.00
65	〃	小谷津街区公園	公津の杜1丁目8番地1	2,008.00
66	〃	向台街区公園	公津の杜3丁目23番地	3,160.00
67	〃	大作台街区公園	公津の杜4丁目9番地	4,348.91
68	〃	山王街区公園	公津の杜6丁目29番地	2,250.00
69	〃	金堀街区公園	公津の杜5丁目31番地1	3,985.00
70	〃	三里塚第2公園	三里塚光ヶ丘1番地5	4,062.75
71	〃	花崎町街区公園	花崎町1015番地1	1,958.43
72	〃	榎入街区公園	久住中央4丁目22番地	1,000.37
73	〃	御所の内街区公園	御所の内10番地	1,846.59
74	〃	内野街区公園	飯田町1番地87	322.00
75	〃	東向野第二街区公園	飯田町177番地117	125.00
76	〃	宮下西第一街区公園	本三里塚189番地7	566.00
77	〃	宮下西第二街区公園	本三里塚194番地29	389.62
78	〃	宮下西第三街区公園	本三里塚171番地79	253.63
79	〃	宮下西第四街区公園	本三里塚206番地68	333.00
80	〃	御料第一街区公園	三里塚御料1番地1255	311.60
81	〃	西三里塚第三街区公園	西三里塚1番地1325	92.00
82	〃	御料第二街区公園	三里塚御料1番地1309	249.18
83	〃	角林谷街区公園	並木町132番地18	144.30
84	〃	土屋街区公園	土屋1341番地8	1,540.85
85	〃	江弁須街区公園	江弁須211番地43	391.76
86	〃	西三里塚第二街区公園	西三里塚1番地174	219.00
87	〃	野毛平街区公園	東和泉441番地1	1,077.67
88	〃	成瀬台街区公園	並木町145番地145	215.56

番号	区分	公園名	所在地	面積(㎡)
89	街区公園	西向野第二街区公園	飯田町 143 番地 87	239.50
90	〃	囲護台第一街区公園	囲護台 1251 番地 35	325.00
91	〃	東向野第三街区公園	飯田町 177 番地 131	179.64
92	〃	西向野第三街区公園	飯田町 133 番地 44	263.47
93	〃	飯田町街区公園	飯田町 129 番地 222	354.27
94	〃	ひがしの内第一街区公園	江弁須 154 番地 34	1,828.32
95	〃	ひがしの内第二街区公園	江弁須 154 番地 171	479.84
96	〃	南向野第二街区公園	公津の杜 2 丁目 40 番地 19	342.20
97	〃	かりわけ街区公園	不動ヶ岡 2095 番地 6	551.87
98	〃	宗吾東街区公園	大袋 255 番地 27	554.29
99	〃	御所の内第二街区公園	東和田 523 番地 18	638.39
100	〃	御所の内第三街区公園	東和田 275 番地 9	781.43
101	〃	まきばのさと街区公園	西三里塚 250 番地 12	1,557.83
102	〃	宮下西第五街区公園	本三里塚 199 番地 11	998.00
103	〃	ひがしの内第三街区公園	江弁須 209 番地 2	220.95
104	〃	宮谷街区公園	久住中央 4 丁目 4 番地	2,100.00
105	〃	不動ヶ岡西部街区公園	不動ヶ岡 1121 番地 49	221.30
106	〃	宮下西第六街区公園	本三里塚 187 番地 4	241.52
107	〃	囲護台第二街区公園	囲護台 1150 番地 68	509.60
108	〃	成瀬台第二街区公園	並木町 145 番地 185	195.00
109	〃	宮谷津街区公園	土屋 1897 番地	869.57
110	〃	土屋吾妻街区公園	ウイング土屋 169 番地	2,501.00
111	〃	なかまち街区公園	本三里塚 239 番地 5	1,440.86
112	〃	向山街区公園	不動ヶ岡 1745 番地 59	170.35
113	〃	田町街区公園	田町 60 番地 11	711.70
114	〃	渋川街区公園	久住中央 2 丁目 4 番地 1	2,100.00
115	〃	日本松街区公園	並木町 22 番地 1	2,256.57
116	〃	ふれあいの丘街区公園	松子 397 番地	7,700.00
117	〃	松子街区公園	松子 408 番地 4	4,686.00
118	〃	浅間第一街区公園	浅間 452 番地 10	5,757.51
119	〃	名古屋街区公園	名古屋 702 番地 94	1,431.00
120	〃	囲護台第三街区公園	囲護台 1250 番地 3	262.90
121	〃	新駒井野街区公園	新駒井野 59 番地 20	357.01
122	〃	並木畑街区公園	並木町 41 番地 184	597.69
123	〃	倉水第一街区公園	倉水 164 番地 14	2,056.00
124	〃	倉水第二街区公園	倉水 161 番地 9	502.00
125	〃	かみだい街区公園	土屋 1997 番地	1,039.76
126	〃	台屋敷街区公園	久住中央 1 丁目 17 番地	1,000.05
127	〃	ほうめ街区公園	寺台 474 番地 32	300.17
128	〃	論田街区公園	不動ヶ岡 2032 番地 2	1,457.00
129	〃	大久保台街区公園	並木町 221 番地 637	408.55
130	〃	しもだいら街区公園	はなのき台 1 丁目 13 番地	1,002.79
131	〃	てんのまえ街区公園	はなのき台 1 丁目 17 番地	1,100.22
132	〃	江川台街区公園	橋賀台 2 丁目 34 番地 14	1,200.56
133	〃	成瀬台第三街区公園	並木町 148 番地 29	150.59
小 計		114 公園		174,257.49
合 計		133 公園		1,135,149.92

(3) 防災拠点施設

本市の防災拠点施設として、市役所、病院、消防署、指定避難場所、防災備蓄倉庫、臨時ヘリポート等が挙げられる。

このうち避難施設を、表 2.5.3、表 2.5.4、表 2.5.5に示す。

指定緊急避難場所が 56 か所、指定避難所が 52 か所、自主避難所が 17 か所指定されている。

また、表 2.5.6のとおり、ヘリコプター臨時離発着場が 14 か所整備されており、下総運動公園野球場、大栄運動場、大栄中学校については、避難場所と臨時ヘリポートが同じ敷地内に存在していることから、効率的な活用が考えられる。

なお、大谷津運動公園は災害時に自衛隊の受援地となる。

表 2.5.3 指定緊急避難場所一覧

平成 27 年 11 月 30 日現在

No.	施設・場所名	収容人数 (人)	対象とする異常な現象の種類					指定避難所との重複
			洪水	崖崩れ	地震	大規模な火事	内水氾濫	
1	成田高等学校（講堂兼体育館、グラウンド）	3,500	-	○	○	○	-	○
2	成田小学校（体育館・校庭）	2,329	○	○	○	○	○	○
3	成田国際文化会館	2,375	○	○	○	○	○	○
4	成田中学校（体育館・校庭）	3,584	○	○	○	○	○	○
5	美郷台小学校（体育館・校庭）	2,727	○	○	○	○	○	○
6	印東体育館	248	-	○	○	○	○	○
7	公津小学校（体育館・校庭）	2,037	○	○	○	○	○	○
8	平成小学校（体育館・校庭）	2,376	○	○	○	○	○	○
9	公津の杜小学校（体育館・校庭）	2,567	○	○	○	○	○	○
10	公津の杜中学校（体育館・校庭）	3,264	○	○	○	○	○	○
11	成田西陵高等学校（体育館・屋外運動場）	6,528	○	○	○	○	○	○
12	八生小学校（体育館・校庭）	2,755	○	○	○	○	○	○
13	中郷運動施設（体育館・校庭）	2,945	○	○	○	○	○	○
14	旧久住第二小学校（校庭）	1,363	○	○	○	○	○	-
15	久住体育館	1,320	○	○	○	○	○	○
16	久住小学校（体育館・校庭）	1,507	○	○	○	○	○	○
17	久住中学校（体育館・校庭）	4,253	○	○	○	○	○	○
18	豊住運動施設（体育館・校庭）	3,312	○	○	○	○	○	○
19	豊住小学校（体育館・校庭）	2,165	○	○	○	○	○	○
20	遠山小学校（体育館・校庭）	1,262	○	○	○	○	○	○
21	遠山中学校（体育館・校庭）	4,771	○	○	○	○	○	○
22	三里塚小学校（体育館・校庭）	3,160	○	○	○	○	○	○

No.	施設・場所名	収容人数 (人)	対象とする異常な現象の種類					指定避難所との重複
			洪水	崖崩れ	地震	大規模な火事	内水氾濫	
23	本城小学校 (体育館・校庭)	3,467	○	○	○	○	○	○
24	十余三運動施設 (体育館・校庭)	2,000	○	○	○	○	○	○
25	中央公民館	961	○	○	○	○	○	○
26	吾妻中学校 (体育館・校庭)	4,817	○	○	○	○	○	○
27	吾妻小学校 (体育館・校庭)	3,834	○	○	○	○	○	○
28	成田国際高等学校 (体育館・屋外運動場)	6,132	○	○	○	○	○	○
29	新山小学校 (体育館・校庭)	3,340	○	○	○	○	○	○
30	西中学校 (体育館・校庭)	6,699	○	○	○	○	○	○
31	加良部小学校 (体育館・校庭)	3,792	○	○	○	○	○	○
32	橋賀台小学校 (体育館・校庭)	4,753	○	○	○	○	○	○
33	玉造小学校 (体育館・校庭)	2,642	○	○	○	○	○	○
34	玉造中学校 (体育館・校庭)	4,405	○	○	○	○	○	○
35	成田北高等学校 (体育館・屋外運動場)	7,037	○	○	○	○	○	○
36	神宮寺小学校 (体育館・校庭)	3,366	○	○	○	○	○	○
37	中台小学校 (体育館・校庭)	2,840	○	○	○	○	○	○
38	向台小学校 (体育館・校庭)	3,032	○	○	○	○	○	○
39	中台中学校 (体育館・校庭)	4,357	○	○	○	○	○	○
40	中台運動公園	9,064	○	○	○	○	○	○
41	滑河運動施設 (体育館・校庭)	1,875	-	○	○	○	○	○
42	高岡運動施設 (体育館・校庭)	742	-	-	○	○	○	○
43	旧名木小学校 (校庭)	1,504	○	○	○	○	○	-
44	旧小御門小学校 (校庭)	2,532	○	○	○	○	○	-
45	下総みどり学園 (体育館・校庭)	7,001	○	○	○	○	○	○
46	下総高等学校 (体育館・屋外運動場)	7,375	○	○	○	○	○	○
47	下総運動公園 (野球場・運動広場)	25,850	○	○	○	○	○	-
48	下総公民館	262	○	○	○	○	○	○
49	大須賀小学校 (体育館・校庭)	2,104	○	-	○	○	○	○
50	大栄中学校 (体育館・校庭)	5,953	○	○	○	○	○	○
51	桜田小学校 (体育館・校庭)	957	○	○	○	○	○	○
52	津富浦小学校 (体育館・校庭)	695	○	○	○	○	○	○
53	大栄 B&G 海洋センター	3,100	○	○	○	○	○	○
54	大栄公民館	1,089	○	○	○	○	○	○
55	前林小学校 (体育館・校庭)	826	○	○	○	○	○	○
56	川上小学校 (体育館・校庭)	1,542	○	○	○	○	○	○

表 2.5.4 指定避難所一覧

平成 27 年 11 月 30 日現在

No.	施設・場所名	収容人数（人）	指定避難場所との重複
1	成田高等学校（講堂兼体育館）	1,134	○
2	成田小学校（体育館）	492	○
3	成田国際文化会館	212	○
4	成田中学校（体育館）	317	○
5	美郷台小学校（体育館）	310	○
6	印東体育館	248	○
7	公津小学校（体育館）	194	○
8	平成小学校（体育館）	278	○
9	公津の杜小学校（体育館）	226	○
10	公津の杜中学校（体育館）	380	○
11	成田西陵高等学校（体育館）	472	○
12	八生小学校（体育館）	176	○
13	中郷運動施設（体育館）	175	○
14	久住体育館	259	○
15	久住小学校（体育館）	185	○
16	久住中学校（体育館）	324	○
17	豊住運動施設（体育館）	221	○
18	豊住小学校（体育館）	193	○
19	遠山小学校（体育館）	180	○
20	遠山中学校（体育館）	352	○
21	三里塚小学校（体育館）	269	○
22	本城小学校（体育館）	270	○
23	十余三運動施設（体育館）	196	○
24	中央公民館	250	○
25	吾妻中学校（体育館）	317	○
26	吾妻小学校（体育館）	314	○
27	成田国際高等学校（体育館）	460	○
28	新山小学校（体育館）	269	○
29	西中学校（体育館）	378	○
30	加良部小学校（体育館）	265	○
31	橋賀台小学校（体育館）	263	○
32	玉造小学校（体育館）	271	○
33	玉造中学校（体育館）	306	○
34	成田北高等学校（体育館）	404	○
35	神宮寺小学校（体育館）	275	○
36	中台小学校（体育館）	271	○

No.	施設・場所名	収容人数（人）	指定避難場所との重複
37	向台小学校（体育館）	251	○
38	中台中学校（体育館）	317	○
39	中台運動公園	1,220	○
40	滑河運動施設（体育館）	165	○
41	高岡運動施設（体育館）	165	○
42	下総みどり学園（体育館）	646	○
43	下総高等学校（体育館）	378	○
44	下総公民館	262	○
45	大須賀小学校（体育館）	145	○
46	大栄中学校（体育館）	416	○
47	桜田小学校（体育館）	228	○
48	津富浦小学校（体育館）	145	○
49	大栄 B&G 海洋センター	322	○
50	大栄公民館	311	○
51	前林小学校（体育館）	225	○
52	川上小学校（体育館）	165	○

表 2.5.5 自主避難所一覧

平成 27 年 11 月 30 日現在

No.	施設名	住 所
1	三里塚コミュニティセンター	成田市三里塚 2
2	成田公民館	成田市田町 299-2
3	公津公民館	成田市宗吾 1-839-1
4	八生公民館	成田市松崎 317
5	中郷公民館	成田市赤荻 1587-1
6	久住公民館	成田市幡谷 922-2
7	豊住公民館	成田市北羽鳥 2024-1
8	遠山公民館	成田市大清水 48-7
9	中央公民館（指定避難所と兼務）	成田市赤坂 1-1-3
10	加良部公民館	成田市加良部 3-4-1
11	橋賀台公民館	成田市橋賀台 1-43-1
12	玉造公民館	成田市玉造 7-21
13	下総公民館（指定避難所と兼務）	成田市高岡 1435
14	大栄公民館（指定避難所と兼務）	成田市松子 393
15	旧久住第二小学校	成田市大室 680
16	旧名木小学校	成田市名木 1050
17	旧小御門小学校	成田市名古屋 1199

表 2.5.6 ヘリコプター臨時離発着場一覧

離発着場名	所在地		広さ		最寄消防署からの距離	避難所との競合
	地名・地番	座標	幅×長さ	施設区分		
八生第1スポーツ広場	宝田 1733	北緯 35, 49, 11 東経 140, 18, 03	70m×70m	中	6.7 km	無
中郷スポーツ広場	新泉 19	北緯 35, 48, 33 東経 140, 21, 15	50m×70m	中	5.6 km	無
久住第1スポーツ広場	久住中央 4-23-1	北緯 35, 50, 23 東経 140, 20, 07	50m×60m	中	1.9 km	無
久住第2スポーツ広場	小泉 1131	北緯 35, 49, 06 東経 140, 21, 57	50m×50m	中	5.6 km	無
豊住第1スポーツ広場	南羽鳥 570-20	北緯 35, 49, 46 東経 140, 17, 35	50m×60m	中	4.7 km	無
遠山スポーツ広場	本城 103-22	北緯 35, 44, 23 東経 140, 22, 37	65m×65m	中	1.5 km	無
後谷津公園	中台 2-23	北緯 35, 46, 59 東経 140, 17, 34	70m×90m	中	1.1 km	無
大谷津運動公園多目的広場	押畑 952-3	北緯 35, 47, 55 東経 140, 18, 31	60m×80m	中	3.8 km	無
成田国際空港	成田国際空港 内	北緯 35, 45, 20 東経 140, 23, 25	30m×50m	小	3.8 km	無
下総運動公園野球場	高岡 1435	北緯 35, 52, 31 東経 140, 21, 23	100m×100m	中	4.8 km	有
利根川河川敷（高岡地先）	高岡地先	北緯 35, 52, 01 東経 140, 21, 07	100m×100m	中	4.8 km	無
大栄運動場	一坪田 388	北緯 35, 49, 05 東経 140, 25, 17	88m×65m	中	2.4 km	有
大栄中学校	伊能 125	北緯 35, 49, 57 東経 140, 25, 31	90m×80m	中	1.8 km	有
利根川河川敷（竜台地先）	竜台地先	北緯 35, 52, 07 東経 140, 17, 22	100m×100m	中	1.8 km	無

出典) 成田市資料